026185-000-2

19-449

九州鉄道旅客の手引

岡本　武平／著

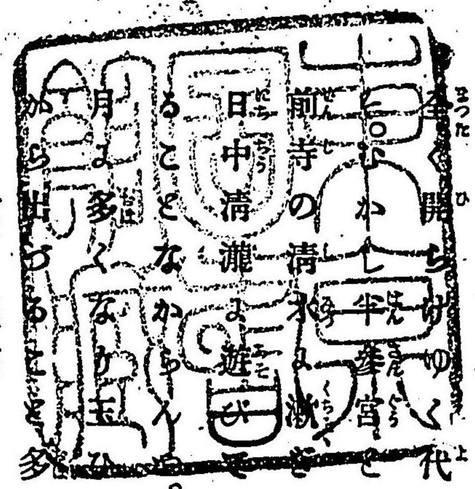
M26

ADC-3870

19-449

緒言

冷水嶺の嶮を越ゆるの辛勞もなく、玄界洋を渡るの憂苦もなく腹切坂は昔語よ殘るのみ、田原坂は仰ぎながら過るよ至れるは全く開けゆく代よ、鐵道てふものゝ布設せられし賜ものよこと



前寺の清水よ激しもものも千代の松原の夕籟よ心耳を澄ましる日中清瀧よ遊び夜松原神社よ月を眺む、是れ汽車の利機よよ月よ多くなり玉から出づることと多し。此の鐵道汽車よりて往來し給ふ華客日よまく思ふ旅亭の心より、茲、よ是れ等を書き集め、鉛版よものして聊か往來の手引よ具へまつるよあん、斯の書固より客の知りませしことのみなれど、只だ家づとのれ談しの備忘よ具へまゐら

すといふのみ、猶は誤謬のふしも多からんなれど、夫れ等は只だ大方の御教へを待ち奉つるまこそ。

明治癸巳のとし

研齋主人謹稿

漢車賃金概表

驛名	門司	小倉	折尾	博多	二日市	佐賀	久留米	大牟田	熊本
門司		四錢八厘	二〇	五六	六五	九五	八一	一〇六	一、四三
小倉	四錢八厘		一三	四八	五七	八七	七三	九八	一、三五
折尾	二〇	一三		三六	四五	七四	六一	八五	一、三
博多	五六	四八	三六		九	三九	二五	五〇	八七
二日市	六五	五七	四五	九		三〇	一六	四一	八五
佐賀	九五	八七	七四	三九	三〇		二三	四八	六二
久留米	八一	七三	六一	二五	一六	二三		二五	三七
大牟田	一〇六	九八	八五	五〇	四一	四八	二五		
熊本	一、四三	一、三五	一、三	八七	八五	六二	三七		

注意
一漢車時刻及賃金表は大驛のみを掲ぐ
一賃金は下等賃金を掲げたり中等は五割増上等は二倍なり
一佐賀線は鳥栖、筑豊興業線は折尾にて乘換の事

門司港漢船出帆時刻

東京神戸行	日本郵船會社漢船	毎火曜日午前十時
神戸大坂行	大阪商船會社漢船	毎日午後十時
尾道ノ行	仝	上毎日午後十時

但尾の道直航船は翌日午后一時五十六分尾の道發の山陽鐵道ゑ連絡す

目次

門司港……一
大里驛……二
小倉驛……十一
黑崎驛……十二
折尾驛……十七
遠賀川驛……十九
赤間驛……二十
福間驛……二十一
古賀驛……二十三
香椎驛……二十四
箱崎驛……二十五
博多驛……二十八
雜餘驛……三十一
二日市驛……四十三
原田驛……四十五
田代驛……五十三
鳥栖驛……五十四
久留米驛……五十五
羽犬塚驛……五十五
矢部川驛……六十二
渡瀨驛……六十三
大牟田驛……六十五
長洲驛……六十六
高瀨驛……六十九
木葉驛……七十
植木驛……七十二
池田驛……七十四
七十七

頁

熊本驛……七十九
佐賀支線の部
鳥栖驛……九十二
中原驛……九十三
神崎驛……九十三
佐賀驛……九十四

旅客の手引

九州鐵道

九州鐵道は豊前國企救郡門司關より起り、熊本縣肥後國八代郡八代町より終る、支線は佐賀縣肥前國養父郡鳥栖驛より、長崎縣長崎市より至れり。現今開通して瀛ヶ車の運轉し居る者は門司熊本間延長百二十一哩三十一鎖、及び支線鳥栖驛より中原神崎を經て佐賀驛より至るの間なり。其線路恰かも九州の北海岸に沿ひ、南肥後の西岸より至り、豊前筑前筑後肥前肥後の五州を貫通せり。東は一葦海水を隔てゝ長門國赤間關より達する山陽鐵道より接し、南は肥後の中間より終ると雖も、近年鹿兒島鐵道敷設の計畫盛んなれば、遂に薩州の南端より九州を一貫して山陽鐵道に連なり、東海鐵道を經て本島の北端まで一瞬千里の便を得るは、年を期して待つ可きなり。

九州の地西支那朝鮮及び南洋諸島に近くして、上古以來常に開化の輸入地たりしを以て、名勝古跡極めて多く、特に北海岸の風景に富める、到る處に行客をして低徊去る能はざらしむるものあり。請ふ逐次鐵道近傍の地理名跡風俗等を叙し、以て世の西日本探見家の爲

ゝ其行途を指示すべし。

門司港

山陽の行客去て道盡くる所、赤馬關外頭を擧げて、『筑山淡、豐山濃』を望み、一水帶の如く之を渡り來れば、直ゝ九州鐵道の起点ゝ達すべし、則ち門司港なり。

門司港は九州の咽喉ゝして、福岡縣豐前國企救郡文字關ゝ在り。數年前迄は寂莫たる一小港灣ゝ過ぎずして、漁舟薪艇の外、唯食鹽の輸出を見しのみなりしが、豐前の有志者見る所ありて、築港を計り、當時の福岡縣知事安場保和氏大ゝ之を贊成し、內務省技師及御雇外國人シムルテール氏をして撿査せしめ、會社を組織し、明治廿二年より土功ゝ着手し、廿四年末第一區第二區の工事を終るゝ至り、九州鐵道の開通と共に日ゝ繁盛の域ゝ赴き、昨年度の如き戶數の增殖實ゝ一ヶ月十五戶を以て數へしと云ふ。

地形東は門司山、南は三角山及ひ風師山ゝ擁せられ、北は速戶の瀨戶を隔てゝ長門の境の浦ゝ對し、西は馬關と一葦海水を隔つ。是を以て其灣恰も山中の湖水の如し、硯海の稱之れゝ由て起ると云ふ。鍋嶋丹波守綱周の歌ゝ、

かたみよやかきおくもしの關おらむ硯の海の波のなごりゝ。

左れは此港ゝ四時の眺望に富むのみならず、水深く波穩かゝ、最も碇泊ゝ便なり。往古は三韓入貢の港ゝして、今猶遺跡を地名ゝ存す。現時ゝ內外の滊船帆船林の如く、出入常ゝ頻繁を極め、加ふるゝ赤馬關より九州ゝ渡るもの、九州より赤馬關ゝ渡るもの、絕へず數艘の小滊船と小和船とゝより往來し、大ゝ其賑ひを添へり。陸ゝは鐵道會社及仝社員の社宅なる宏壯の建築あり、旅館回漕店諸會社の年々增加せらるゝ者皆壯大を競ひ、海岸ゝは筑豐の鑛山より輸出する石炭、常ゝ積んで山を爲せり。如此年々人口繁殖し、築港ゝ三區中已に第一區第三區成れり。

今左ゝ此港より各國ゝ至る滊船の航路及其運賃を揭載し、聊か旅客の便ゝ供せん。

從馬關門司兩港
至各港乘船運賃一覽表　明治二十五年九月改正

港名＼等級	上等別室	上等	中等	下等
三田尻	二〇〇	九〇〇	六〇〇	四〇〇
德山	一六〇〇	一二四〇	八〇〇	五五〇
福川	一	一	一	六〇〇
室津、室積	二三〇〇	一六五〇	一五〇	
麻郷				

柳井、大畠 久賀	二四〇〇	一八〇〇	一二〇〇	六五〇	
岩國	二八〇〇	二一〇〇	一四〇〇	七〇〇	
廣嶋	三一〇〇	二三五〇	一五五〇	七五〇	
吳小用	三三〇〇	二四五〇	一六五〇	八五〇	
音戸長濱	三五〇〇	二五五〇	一七五〇	一一〇〇	
竹原忠海	三七〇〇	二八〇〇	一八五〇	一二五〇	
三原、尾ノ道、鞆津	四〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	一三五〇	
多度津	四二〇〇	三一五〇	二一〇〇	一四〇〇	
高松	四三〇〇	三二五〇	二一五〇	一四五〇	
神戸大阪	四八〇〇	三六〇〇	二四〇〇	一六〇〇	
三津濱	三三〇〇	二四〇〇	一六五〇	一一〇〇	
今治	三六〇〇	二八〇〇	一八〇〇	一二五〇	

馬關門司 同盟漕船事務所

（注意）昨今は重ゑ尾ノ道まで漕船ゑて赴き、其より山陽鉄道の便に依るもの多し。然れども是等は中等以上の人にして、漕船賃を經濟する者は、矢張り神戸に直航するを可とす。

旅店　此港にては、回漕業者多く旅店を兼業し、回漕一切の周旋を爲すと共ゑ、亦旅客寢食の用をも辨するが常なり、是れ自然の必要より來る結果ゑして、双互の便利より斯くは成り來れるものなるべし。勿論旅店專業の者無きゑあらざるも、是等は寧ろ中等以下に適するが如し。左れは其以上の旅客は、矢張り回漕兼業の問屋ゑ投するを便とす。其重なる者は、石田、古賀文、川卯、八阪、松延等ゑして、宿料及ひ晝食料は大概左の例ゑよる。

宿料

壹等	七十五錢
二等	五十錢
並等	三十錢

晝食料

壹等	三十五錢
二等	二十五錢
並等	十五錢

料理店　は一二の稍大なるものなきゑあらされ共、紳士紳商の會合ゑ適するもの少なし。左れは此港近傍ゑ於ける盛大の會合は、多く對岸なる赤間關春帆樓（あかまがせきしゅんぱんろう）ゑ於てす。

諸會社　の此港ゑ在るもの下の如し、而して追ひ〳〵新設せらるゝものあり。曰く九州鐵道會社。曰く門司築港會社。曰く大坂商船會社出張所。曰く日本郵船會社出張所。曰く石

炭坑主會社。曰く內國通運會社出張所。曰く久留米運輸會社支店。曰く門司新報社。

各官衙　は長崎稅關門司出張所、門司警察分署、門司郵便電信局、海軍倉庫事務所、門司砲臺監守所、登記所、文字關村役場、其他。

而して其名勝舊蹟を擧ぐれば、

速戸の瀨戸　硯の海の北よ窮まる所、九州と中國と相對する間なり。海水僅かよ五丁許、速戸の瀨戸と稱す。此瀨戸を北よ出つれは周防灘、西よ出つれい硯の海より玄海灘よ續けり。左れい兩洋の海潮常よ此瀨戸よ激し、急湍恰かも捲くが如し。又早吸の戸とも云ふなり。速戸神社い岸上よあり。此地太古は陸地續きて下洞門を爲せしを以て、穴門又長門とも云ひ、長門の國名は依つて起れりと云ふ。今猶天然の要害をなし、嘗て長藩の士が西洋の軍艦を要擊せし處たり。現時對岸の山上よ砲臺を建築し、馬關要塞砲兵之を管轄す。

速戸神社　門司港の北端速戸の瀨戸の上よあり。祭神い比賣大神、彥火々出見命、鵜萱葺不合命、豐國姬命、阿曇賤良神の五座よして、仲哀天皇九年始めて之を鎭座すると傳ふ。社殿壯麗よあらずと雖も、自ら閑靜靈淑の地を占め、右は速戸の瀨戸を隔てゝ壇の浦の古戰場を望み、『血戰餘勢有二怒潮一』を見るべし。左は門司港帆船漕船往來し、繁盛の烟立上るを見る、春夏の候にありては此上なき散策地たり。此社の神事として古より傳へ來れる和布刈

の神事なるものあり。毎年陰曆大晦日の夜更けて、社司衣冠を脫ぬ、鎌を携へ、炬を照らして、神前の石階を下り、速戸の海底よ入りて和布を刈る、之を神前よ供し終夜祝詞するなり。往古い朝廷に奉り、中古以來い國主よ捧ぐと云ふ、廢藩後捧呈のこと止みしも今尙ほ其式を存せり。編者之を史家よ聞く、彥火々出見命此海邊なる錦津見宮よ遊び彼の汐の滿干の玉を得玉ひしとの因緣よて、今よ豐浦の沖に干珠滿珠の嶋あり。和布刈神事も錦津見神の家業の傳はりよはあらぬかと。此宮よ向ひ長門國豐浦郡山田村(今楠村)よ住吉荒魂神社あり、錦津見の神なる可し。古歌よ

今もなほしほの三つに分かるゝぞ是や神國のしるしなりけむ。　直養

甲宗八幡宮　門司港の東北文字關村の內字舊門司よあり、海岸の丘上にして又た頗る眺望よ富めり。速戸神社よ至る道筋なり。祭神い品田別命、玉依媛、息長足姬の三座よして、清和天皇貞觀元年秋大安寺僧行敎よ詔して豐前國宇佐八幡宮を山城國雄山よ遷し奉りし時此關い神功皇后三韓を征し玉ふの日武內宿禰皇軍師となりて軍を調へし處よして、凱旋の後三韓の貢船も此處よ來り泊せしは此大神の御威光なりとて、神輿を此邊よ休め奉り、其廿一日を吉日として分靈を鎭祀し、大神義勝なる者を祭主として神寶よは應神天皇の甲冑を以てし、甲宗八幡宮と稱し奉れりと云ふ。爾來世々崇敬怠らず、殊よ小倉城主小笠原氏よ

至りては、尊信一方ならずして造營怠らず、小倉府内の五社と崇め、門司六郷の產社とし
て年毎ゑ八月十四日神樂、十五日神幸流鏑馬等を執行し來れり。

門司屋關の跡　門司の關は何時の頃より置かれしかを知らざれども、諸史を案するゑ延曆
以前天平十八年の頃なるべしと云ふ。太平記劔卷ゑ、三月廿二日範賴九ヶ國の軍兵を相具
し豐前國門司關ゑ向ひ、平家を中ゑ取込み戰ふと誌るしあれど、此文治の頃は其關屋は已
ゑ亡びて只門司が關と云ふ名のみ殘りたるが如し。又後賴卿の散木集ゑは、文字が關を過
きけるゑ關屋ゑ人の見へさりければ、とあり。去れば堀川天皇嘉保の頃までは關屋の在りし
と著し。關屋の跡今は此處と定め難けれど、舊門司の北端ゑ少き古池あり、之を關守の
井戸と云ふ。上い古木茂り、清水湧き出る處、其跡と思はれたり。此邊五輪の如き石あり
て、浦人之を石神樣と唱ふ。今此地ゑ於ける古歌を拾ふて旅客懷古の慰みに供すべし。

拾玉集　思ふことを書くぞうれしき文字の關心とむ可き道ならめやも。　慈鎭

玉吟　玉章もみやこへ行はことつてむ文字の關路を歸る雁かね。　家隆

夫木集　文字の關落つる涙の玉章を書きあへぬまて京都をそ思ふ。　衣笠內大臣

新勅撰　春秋の雲井のかりもとゝまらす誰が玉章の文字の關守。　入道前關白

九州道記　ふるさとにことつてやらむ一筆も書きやためなむ文字の關守。　源藤孝

後太平記　すきし世の哀をしつむ君が名をとゝめおきたる文字の關守。　足利義詮

三角山古城跡　後鳥羽天皇文治年間、下總前司親房の築く處ゑして、後小松天皇應永の頃
三角左兵衛尉是ゑ居り、次て門司彌三郎親辰居る。頗る古城ゑ屬するのみか今は城址さへ
尋ねるゑ由なき小城なれは之を略す。

門司古城跡　速戸神社の東方なる高山門司關山ゑあり。地勢自ら天然の要害を占むるを以
て、今は此處ゑ砲臺を建築し、第六師團の管轄とす。城跡は砲臺の上なる松山なりと云ふ。此
城は後鳥羽天皇文治五年、源賴朝卿の下知ゑよりて下總前司親房豐前國守護ゑ補せられ此
山に城を築きて門司下總守と名乘ると見へたり。古城傳記ゑ、後小松天皇應永の初め木綿和
泉守城主たり、四年大內義弘之を討つ、兵七百餘騎を具して明神尾より攻登り、陶尾張守弘
房田浦峠搦手より攻め、七日ゑして之を拔き、城主木綿以下三百餘騎討死。十二月より門司
下總守親高をして是を守らしむとあり。親高い親房の子孫なれば、和泉守ゑ拔れたるを大內
家より取り返したるなる可し。其後後奈良天皇天文以後、大友義鎭小早川隆景仁保就定等相
襲て此ゑ居り、天正十五年秀吉より丸毛三郎兵衛城戸十乘坊を此ゑ置き、慶長五年より細川
越中守の臣長岡勘解由左衛門を置かれしが、元和三年之を破却す。三角山は即此城の砦なり。

清瀧公園　風師山の後ろ三角山の麓ゑして、海岸を距ること三町、鐵道會社の前面ゑ當る處な

り。其名は遠はず清水巖上より流れ出て、其邊の風景天然の公園たり。夏時の消閑は宜るし。

新羅崎　文字關村の内大字楠原にあり。停車場より南方に望んで海岸に突出でたる處あり其昔新羅國の貢船始めて此處に來り泊するを以て傳へて地名とせりと云ふ。眺望い前面海を隔てゝ明かに赤馬關を望み、又た筑前の諸高山を眺め、頗る絶景なり。

久豆葉　も亦た新羅崎の近傍にあり。今鐵道會社社宅の建築ある所にして、始め百濟の貢船此處に來泊せし故百濟濱と呼ひしが、後世之を訛りて久豆葉と呼び、今は之を葛葉と稱せり

小森江　葛葉の西家入鐵工場の所にして、往古高麗の貢船碇泊せしより高麗泊と云ひ、後世コモリエと訛りたり。

岸柳島　は又松嶋と云ふ、長門國に屬す。人烟なき一小嶋なり。昔宮本武藏が佐々木岸柳を討取りたる地なるを以て岸柳島の名あり。今は此處に赤間關避病院を置く。門司より眺むれは西南海中の山麓に赤ハゲの樣に見ゆるもの即岸柳島にして、滊車門司停車場を發し、三十町余を過ぐる時、明かに一小嶋を認むべし。

是より右に海岸の絶勝を賞し來りて大川を渡り、列車の進行漸く緩に、忽ち運轉の停むはこれを大里驛とす。

大里驛

此驛は柳浦村大字大里と稱せり。幕政中は九州諸侯の參勤交代必ず此驛を經て赤間關に渡海せしを以て繁昌なりしと雖、慶應年間兵燹に罹り、家屋悉く烏有となり、今は寂莫たる一村落のみ。唯煉瓦製造所あり。此地往昔養和天皇の行宮ありし所にして、柳浦大裏の稱を存す。海岸は白砂青松相連り、風光最も喜ぶ可し、夏時門司小倉より海水浴の爲め來る者多し。

柳浦　柳浦と云ふは即ち此邊の總稱にして、大里海岸の松林より三町計を隔てたる田甫の中に數百年を經たりと思ふ一の古柿あり、是れ往古の海岸なりと云ふ。今大里と稱する處は養和天皇の皇居ありしより其後柳浦の大裏と稱せしが、後ち大裏の稱を憚かりて大里と改めぬ。行宮の跡は貴船社の邊あり。今尚口碑に存す。此社に安德天皇の像及ひ平宗盛の像を祭る。平忠度歌あり、

都なる九重のうち戀ひしくば柳の御所に立ちよりて見よ。

戸上山　は此邊の高山なり、天御中主命伊弉諾命伊弉諾冉命の三神を祭り、戸上神社と稱す。山麓に名僧蘭山和尚の開基なる靜泰院と稱する禪寺あり、尤幽邃の地なるも、今は荒蕪に屬せり。這寺より凡十町にして山の半腹に瀧あり、傍の岩に歌塚あり。其歌に

誰も世に留るとはなき山水にすむも濁るも流れてぞ行く。

此歌細川玄旨法印の詠と傳ふれども、記名磨滅して分り難し。

赤阪延明寺の跡　停車場より二十餘町海岸の小高き丘上なり。今は堂宇存せず、田中芝玉なる禪僧一小菴を結んで之に居る。海上の眺望絶佳『月横大空千里明、風動金波々有聲』の景あり。境外宮本武藏の碑あり、武藏一生の事蹟を記す。又長州奇兵隊戰死の墓あり」

＊　＊　＊

滊車は大里に止まること數分にして運轉を始め忽ちにして又た進行の止まるを見るべし。即ち小倉驛とす。

小倉驛

小倉驛は、豐前國企救郡小倉町にありて、九州鐵道第三次の停車場なり。市街の繁盛及名勝古跡亦た見る可きものあり。請ふ左に叙する所を讀んで其地形風土を概想せよ。

小倉町の記

小倉は元小笠原氏十五萬石の城下にして、其城址今は第六師團第十二旅團の兵營となれり市街現在の戶數凡そ一千三百、人口一万四千に下らず。市坊二十五あり。紫川市街の間

を貫流す、大橋あり常盤橋と稱せり。明治二十二年新たに自治制を敷き小倉町と稱す。門司港を距ること四哩二十鎖。滊車開通以前は九州咽喉の要港たりしを以て、東西往來の旅客輻輳し、商勢從つて賑かなりしが、開通後は門司港の爲めに稍繁盛を奪はれたるの景況なきにあらざれども、近年東京製紙會社の製造所あり、最も盛大なるのみならず、市外に九鐵會社の鐵工場あり、是亦宏壯其他蒸滊精米所二個あり。且近傍石炭の產出盛んなるが爲に、尙ほ舊來の繁榮を失ふに至らず。其港に海上僅かに五水里を隔てゝ赤馬關と相對し港灣の廣さ、東西十五町、南北十二町、水の深さ二仞、數艘の小滊船は絶へず赤馬關との間を往來し、鐵道滊車は絶へず上下荷客の運漕を勉む。此港に明治十八年海口に數百間の石波止を築き港を改良し、同廿二年常盤橋を鐵造に架換たり。以て其盛況を察すべし。

旅店　此地も亦た回漕業者にして旅店を兼業する者多し。其稍大なる者に船頭町藤井廣田寶町の錢屋及關初室町の達見等にして、其宿料及晝食料は大概ね左の例に依る。

宿泊料

壹等	五拾錢
貳等	四拾錢
三等	三拾錢

晝食料

三拾錢	
四拾錢	
貳拾錢	

四等　貳拾五錢
五等　貳拾錢

官衙學校及諸會社の當町に在る者は左の如し。

福岡地方裁判所支部　室町
企救郡役所　仝上
公立小倉病院　仝上
第十七國立銀行　室町
製紙會社　馬借町
八坂神社　鑄物師町にあり。元和三年九月細川忠興の創立にして、倉城の鎮守神と尊崇せり。例年六月一日二日を大祭日と定め、九月十一日を神事能の定日となす。近年大祭日を八月一日二日と改めたり。

小倉織及其沿革　有名なる小倉織は、即此地の特有物産として其名特に高し。左れは旅人の此地に入る者或は盛大なる製織所又は盛大なる販賣店の在るならんと考ふるもの多かるべし。然れとも小倉織が盛んに製織されて各地へ販賣したるは既往の時代にして、今は纔に製造家あるのみなり。彼の陸軍用の服地或は常人の用ふる處の帶地は、現今此地より産するものにあらすして只其外面のみ小倉織を摸造し、安價を目的

小倉區裁判所　仝上
小倉警察署　仝上
高等小學校　京町
豐陽銀行　京町
朝日商社　室町

とするのみ。抑も此の小倉織の沿革を尋ぬるに、今を去ること凡そ三百餘年前、藩士の一婦人某と云ふもの此織物を發明せしと云ふ。其質堅强其染色堅牢にして、年を經るも其質を損せす。又た幾度洗滌するも益々其光澤を益すを見る。是れ即ち小倉織の濫觴にして、其後年を經て盛大を極めたるものと知られたり。其織方は四ッ糸織三ッ糸織及ひ夫婦織あり。四ッ糸織は堅糸四筋を撚り合せて之を一筋とし三ッ糸織は堅糸三筋を撚り合せて一筋として織立て、夫婦織は二筋を以てしたるものにして、其始め甲冑の地布及ひ刃の柄を卷くに用ひたりと云ふ。顧みれは舊藩の時代に於ては全國一般四民の服制嚴重にして、漫りに絹布を用ふることを許されさりけれは、羽織袴及ひ男女帶に至る迄凡て此小倉織を以て最上の品柄とせり。故に其需用極めて廣かりしより製織の業も盛んなりしが、維新以來服制すたれて四民自由に欲するが儘の衣類を用ふるに至り、絹布の流行となり、外國品の輸入となり、遂に此の大勢に押されて小倉織は自然に衰運に赴き、今日の景況に至れるなり。元より今日と雖ども之を注文すれは之を製し得るの織工なきにあらされども、上等の品を製出すること能はず。而して上中等の品は一反三圓乃至五圓を投するに在らされば之を得難しと云ふ。是れ其注文に應して二三反を織るが故にして、以前盛なりし頃は夫々の分業法行はれ居たれば、低價にして製造し得たるあり。有志の士ありて夙に此特有物

産の衰運を挽回せんとせし事屢々なりと雖も、遂に如何んともする能はざりき。

以上市街の景況及旅客必要の事項を擧げたれば、其他は隨意の探問に任かせ、更に進んで近傍遊覽の地を案内すべし。

足立山及妙見宮　小倉町の東一高山の聳ふる者は即ち足立山にして、小富士の別稱あり。人皇四十六代孝謙天皇の御宇、和氣清麿此山の麓に温泉を求め、之に浴せしに、其足痛癒へたりと云ふ。仍て清麿此處に造化の三神を祭れり。是より足立山の稱始まり、又た足立の妙見とも稱しぬ。松樹欝叢、避暑觀雪、春花秋月、共に瓢を携へて遊ぶ可し。停車場を距る二十四五丁。

廣壽山福聚禪寺　妙見社の北に當りて足立山の麓にあり。小笠原羽林源忠眞朝臣の靈堂なり。此寺は寛文四年辰九月建立、唐僧即非和尚の開基にして小笠原家の菩提所なり。延寶四年冬小笠原右近將監忠雄朝臣再建せしが慶應の亂に堂宇過半兵燹に罹り、近年半は再建となり、一仙境の思ひあり、又た藏する所の寶物多し。

清水寺　町の西南十七八丁土地高燥眺望開豁の邊にあり。寺内觀世音を鎮座す。考ふるに此寺は大寶三年の開基なりしも、堂宇破壞に屬せしかば、小笠原右近將忠眞の室永貞院寶永の頃之を京都清水の堀内に模擬して改築し、清水寺と稱せしなり。

到津八幡宮　小倉町を距ること二十餘町、舊城主の産土神にして、又領内各郡の大社と稱せり。創立年紀不詳。文治四年神託によりて宇佐八幡宮を此地に合祭す、故に大宮司の支族世々神主となり祀事を掌れり。又永祿四年七月大友義鎮の爭戰にて、宇佐宮社殿悉燒亡す。因つて神璽を此社に鎮座し奉ること二十三年、天正十一年宇佐へ還幸すと古記に見ゆ。慶長年中細川忠興社殿を改造し、尋て小笠原代々尊崇せし社なり。社殿高丘の上にありて登臨に適せり。

湯川の靈泉　小倉町を去る數丁、足立山の麓に湯川の一靈泉あり。其水頗清冷。俚俗此泉を片眼の魚(方言ハンコと稱する魚)あり。此處即ち清麿が浴せし温泉の在りし所なりとて尊敬し來りたるも、今は其徵跡なく、只其近傍降雪の早く融解するを見るのみ。

黑崎驛（くろさきえき）

黑崎驛は福岡縣筑前國の第一驛にして、遠賀（おんが）郡黑崎村にあり。九州鐵道第四次の停車場なり。黑崎町は、小倉町を去ること三里程。往時は關所を置き往來を嚴にせしが、黑田長政入國の後家臣井上周防之房命を奉して城を築き、郡政を司りたり。抑も此驛は海陸の要路なれば、西國の大小名江戸參勤の際往復の宿驛として頗る殷賑を極めたりしとぞ。左れは當

時此宿を指して九州の咽喉と稱せしも亦偶然にあらず。舊蹟探る可きものあり。今は舊藩以前より異なりて鐵道の開通以來殊に此驛より乘降するの旅客多しと云ふよあらされば、直ちに二三の名勝舊蹟を案内せん。

花尾城及帆柱城　旅客は列車黒崎停車場より北まる時左より一高野の聳ゆるを見るべし。是即ち帆柱山にして、其山上より帆柱城址あり。其北より花尾城址あり。抑も此兩城址の來歷を按するよ、後鳥羽院建久五年宇都宮重業筑前の内三千町を領し、此地より下り、今の黒崎なる麻生郷と云ふにありける花尾城を取立て、後帆柱城を築けりと云ふ。而して重業の子孫世々此兩城より居り、明應年間大内家の麾下より屬し、長州山口より勤番せるを以て、在番中嫡子家信城を守る。時に父山口より妾を蓄へ、男京麻生なる者を產みて卒しけるより、大内家よりては京麻生を以て相續と定め、使を花尾に遣し城を明渡すべきを命じぬ。家信命を拒みて渡さず。交戰三年。大内家和を勸む。家信則ち城を京麻生より讓り、自ら出て、遠賀川の西岡の庄三十八ヶ村を領し、吉木より居城す。家信の二子與次郎與三郎諸國より流浪し、機より乘じて花尾城を復し、數世之を相續せり。又た帆柱城は、天正十四年秀吉九州を征するとき先鋒小早川隆景黒田孝高を遣はし此城を明け渡さしむ。其後孝高の臣三宅某守城せしが、遂に兩城共黒田長政より仕へ子孫永く其臣より列せり。

道伯山の城址　汽車黒崎停車場を發する時、其接近より認むる者は即ち道伯山の城址なりとす。此城は長政大國の初め豐前境防守の爲め築きたる砦よりして、家臣井上周防之房二万石の采地を領じて郡政を司りしが、元和三年一國一城の制よりて之を破却すと云ふ。

龍潛寺　龍潛寺は日蓮宗よりして、今の住職日諦上人の開山なり。土地高燥閑雅よりして後より帆柱山の眺望あり、前面洋々たる海原を望み、頗る散策の好地なり。

旅客は斯くて窗を透して右より海上の絶景を觀、左りより山水の風光を眺め來り、暫らくよりして車する所、即ち折尾驛。

折尾驛

折尾停車場　は遠賀川の分流堀川より臨み、九州鐵道第五次の停車場よりして、筑豐興業鐵道の線路と相交叉し、九鐵線路は高く空より架し、興業鐵線は其の下を通し、木楷を架そて荷客乘降の道となせり。左れば兩線の旅客は、此處より乘換ふるを以て、頗る人荷輻輳の停車場とす。即ち之より直方へ行かんとするものは降りて興業鐵道の上り列車より乘り、若松港へ行かんと欲する者は降りて彼の下り列車より乘るなり。

堀川及吉田の切貫　堀川は遠賀川の分流よりして、興業鐵道線より沿ふて運輸の便あり。此川

は元和年間國主黑田長政公遠賀郡の水難多きを憂ひ、田圃の灌漑と運輸とを計らん爲め、遠賀川の水を引き疏水の工事を起せし者にして、長政は遂に工事を竣へすして卒し、實歷年中繼高之を再興して竣功せり。其延長凡三里。而して吉田の切貫と云ふ即此中間にあり、停車場より七八丁、疏水の爲め山を切通し之れに宏大の石門を設けたり。今日工藝技術の進歩せる日より見ればさして大工事にあらざるが如きも、二百餘年前には頗る珍らしき工事なりしなるべし。

滊車此驛を發し暫くして達するは、遠賀川驛なり。

遠賀川驛

遠賀川驛は、遠賀郡鳥門村にあり。九州鐵道第六次の停車場たり。市街の擧ぐるに堪るものなく、又た名勝の案内すべきなし。只葦屋港は車場より北方重弱、稍繁昌の地とす。」葦屋の港　遠賀川の海に注く處にあり。商船輻輳人烟亦多く。遠賀郡役所も此處にありて、郡中の名邑たり。昔は此地に釜を鑄るの良工數名あり。葦屋釜の名天下に稱せられしが、今は絶へて其跡なしと云ふ。

遠賀川　此川は筑前第一の大河にして、源を嘉摩郡桑野の山中より發し、諸處山谷の水及

豊前田川郡の諸流を併せ、葦屋に至つて海に注く、故に其下流を葦屋川とも云へり。直方田川地方の石炭を、凡て此川に依て運輸し、舸船の上下常に絶ゆることなし。」

滊笛の響きと共に滊車遠賀驛を離れ進行を始むれば、是より鐵路漸く下り坂に沿ふが故に其進行實に箭の如くなるを覺ふ。漸くにして運轉次第に緩なるを覺へ、忽ち認むる所の人家は即赤間村にして、列車の停まる處は赤間停車場なり。

赤間驛

此驛は、九州鐵道第七次の停車場にして、筑前國宗像郡赤間村にあり。郡中の一名邑たるを以て近傍の停車場に比すれば乘降の荷客多きを覺ふ。今左記の諸項を讀み其地形風土及名勝舊蹟の在る所を知りたまへ。

赤間村　停車場を距ること十五丁、郡中の大邑なれば人家頗る稠密、商業亦繁盛なり。俗に此邊を七浦三里と云ふ。是れ此郡中の漁場中蘆屋波津鐘聲神湊勝浦津崎福間の七浦は皆此近傍三里の間に在るを以てなり。

宗像神社　は、赤間を距る二里田嶋にあり。殿堂の宏壯亦九州有名の大社なり。此社に日ノ

神の御子田心姫命湍津姫ノ命市杵島姫命の三神を祭る。昔い宗像三社と稱へ、田心姫命い田嶋よ、湍津姫命を大嶋よ、市杵嶋姫を澳島よ鎮座し來りしが、田島の大宮司長氏後深草院建長年中夢よ神託の告有て三社を今の處よ合祀し奉れり。蓋し此社い有名の古社なれば神寶も多かりしが、時々の火災よ罹りて燒失したる由よて、今保存する内よ法眼の畫聖護院宮の歌足利尊氏寄進の鎧小早川隆景より社人中よ當てたる書狀其他あり。參詣の人も曾て絶へず。殊よ舊曆九月一日の大祭を以て尤も賑かなりとす。

鎮國寺及岩窟不動　宗像神社の近傍五丁餘の處にあり。眞言宗の僧皇竪龜山院弘長年中の開基よして、當時の領主宗像大宮司此處よ五社の本地佛像を安置し、鎮護國家の道場とす依つて鎮國寺を以て稱とせり。蓋し五社の本地とは、大日釋迦藥師阿彌陀觀音よして、何れも巨大の佛像なり、其他保存する處の寶物少なからす。

岩窟不動　は、俗よ穴不動と云ひ、鎮國寺の傍よありて、岩穴の中よある一丈三尺六寸の石体不動なり。左右岩石よ刻せる文字は、何時の世よ刻みたるにや苔よ埋もりて讀むことを得す。毎年舊曆一月二十八日六月二十八日の両度祭禮あり、遠近來り詣つるもの多し。

山田地藏　停車場より三十丁山田村僧福院よあり。往昔宗像大宮司正氏の後室其臣下の爲めよ殺さる依つて其怨靈を恐れ、敬して地藏菩薩と号し、像を作りて此寺に安置すと云ふ

室内廣濶頗る眺望よ適す。

孝子節婦の碑　今を距ること二百年前享保の頃、宗像郡武丸村（武丸は今吉武村の大字なり）よ正助なるものあり、父を正三郎と云ふ。正助父母よ事ふる至孝、官府よ對する至忠、遂に一村の德風を感化す。至誠國主よ聞へ屢々重賞を賜ふ。死後寛政五年國主黑田公郡邑を巡視して其墓を尋ね、父母の碑と共よ念比よ改築し、又た其子孫を優遇せりと云ふ。又た天明年間赤間村よ少女お政なる者あり。天性怜悧態度亦優なり。元富豪の家よ生ると雖ども幼よして孤となり、一家淪滅す。始め父死するよ臨み、遺言してお政を本家の男某よ結納す。れ政長して福岡の士家よ奉公し、婦德兼備の名あり。赤間村の庄屋某頻りよお政を懇望して其嫡子よ配せんとす。勸誘威嚇交も至ると雖も、お政節を守りて動かす。遂に自害して死せり。（事山陽遺稿よ詳かなり）

近年よ至り有志者其德を稱し、長く孝子節婦の名を傳へ、以て時風を矯むる所あらんとし石碑建設の企あり、既に地を卜すと云ふ。嗚呼千秋の下蒼苔石上芳芽の長く絶へざるもの孝子節婦の跡旅客須らく一度び之を訪ふて可なり。

産物　此地方は、重もよ米及び蠟を産す。鷄卵も亦た其有名なる産物なり。

此驛は、宗像郡下西鄕村に屬し、有名なる宮地岳大明神の近傍なるを以て、祭日の頃は特に乘降の客頻繁なり。

宮地岳大明神　瀛車赤間驛を發し、福間停車場に着せんとする時、西北三十餘町の處に認むる所の山は、即宮地岳にして、山上宗像三柱大神を鎭座す。此社は宗像神社の攝社にして、其由緒を尋ぬるに、昔神功皇后三韓を征するに臨み、宗像三柱大神を聘して、神鎭祭を行ひ、祈請して戰ひに臨む。戰勝つて歸り玉ふや、即宗像三柱大神を山上に祭れり。後世合せて皇后を祀ると云ふ。毎年舊曆正月二十一日大祭を執行ふ。遠近參集するもの續々なり。

津屋崎　は停車場の西方一里餘にある一小港にして、戶數殆んど千有餘、船舶出入便にして馬關小倉博多等に向ひ、米及鹽などの輸出多し。

產物　津屋崎鹽は此地方の名物なり。

瀛車福間を發し、小松原を過き來りて、古賀驛に停まる。

古賀驛

此驛は、筑前國粕屋郡席內村大字古賀にして、古賀町は停車場の西海岸にあり。戶數僅々四五十に過きず。小倉博多間の一小驛にして、米を以て產物とす。

名勝古蹟　此近傍はいと古蹟多き地方にして、詳かに探聞するときは史家の參考たる可きものも多かる可し。去れど此驛には旅人を案內するに足る可き古蹟なく、亦た神社佛閣の大なるものなし。席內村の內村社二あり。東にあるを浦口宮と云ひ、西にあるを皇石宮と云ふ。又た停車場より東一里二三合小野村の內大字小山田に齋宮と稱するあり。是亦神功皇后を祀る所にして、婦人の參詣するもの多し。亦た西方一里磯崎宮あり。是亦產神なりと稱へて婦人多く參詣す。舊曆三月三日を祭日とす。

瀛車古賀驛を發し、暫くにして右に洋々たる蒼海を望み、左りに起伏蜿蜒たる山野を眺め忽ちにして博多灣頭に出つるとき、運轉漸く緩にして進行の止まる處、香椎驛。

香椎驛

此驛は粕屋郡中の一驛にして、九州鐵道第十次の停車場たり。博多灣の北隅に瀕し、漁業を以て土民營業の重なるものとす。停車場より直ちに一小市坊を見る者は、即ち香椎町にして戶數甚た多からす、商況亦繁盛と云ふにあらされども、有名なる香椎神社の在る處なるを以て、乘降の客亦た多し。其の停車場に止まる時、玻窓より右海中に一の長き岬を見るは奈多濱にして、延長三里幅二町乃至八町、青松白砂相連りて志賀島に接續す。是即博

多灣の境する處ゑして其外洋い直ちゑ玄海灘なり。

香椎宮　停車場の東北松楠鬱叢たる處い即香椎宮ゑして、神功皇后を奉祀す。九州有名の大社にて社格官幣大社たり。毎年舊暦九月九日を以て大祭を執行す。社殿い石階數層松柏天ゑ聳ふるの中ゑあり。

香椎宮境域甚た宏大なりと云ふにあらざれども古來尊崇する神社なるを以て其名特ゑ高く、從つて參詣の人四時絶ふることなし。

社内ゑ綾杉と云ふ者あり、是即神木ゑして、其由來として傳ふる所を聞くゑ、昔皇后三韓を征し歸朝せられし時、齎らし玉へる三の兵御器（御劍御舒御鐵杖）を此處に埋め、其上に杉の枝を挿して後世我邦の守護神たるべしと誓ひ玉ひしゑ、其杉

即成長して其葉綾を織るが如く、之を綾杉と名けたりと云ふ。其後度々の火災ゑ社殿と共ゑ炎上せしことあれども、新たゑ芽を發して生育し、遂に斯かる大木となれりとなん。一説ゑ、此神社を仲哀天皇を奉祀すと云ふ者あれど、是れ誤りゑして、天皇の廟い越前の國ゑあるを眞とす。初め皇后の三韓を征するや、行宮を此地ゑ置き玉ふ。偶々天皇の崩御ゑ逢ひ、御柩を暫らく椎の木ゑ懸くるゑ、異香四方ゑ薫せり。香椎村の名依つて起ると云ふ。

帆柱石　瀛車香椎を發し、多々良鐵橋を渡るとき海岸ゑ一小神社の森の中に見ゆる者、名鳴村の辨才天ゑして、帆柱石は即ち此下にあり。潮退くときは明かゑ之を見ることを得べし。帆柱石は昔神功皇后三韓を征し、歸りて船を此濱ゑ繫き玉ひし時、其帆柱を棄て置きしゑ年を經て石となると云ふ。今は長さ四尺計りの物七個ゑ割れ木理依然としてあり。特ゑ其一片の如き明かゑ鉄輪の痕を留めたり。誠ゑ奇代の珍物と云ふ可し。

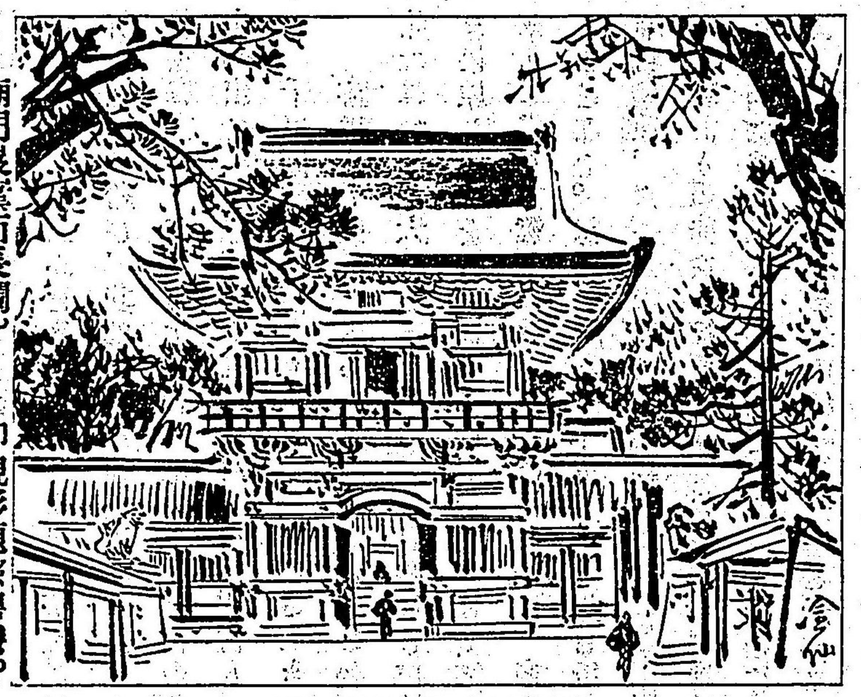
草場山の温泉　停車場の東北十町余草場山の半腹ゑあり。山は一面小松叢生し、博多灣の絶景と玄海の眺望とを一目の中ゑ指點し、覺へず神心爽快ならしむ。此温泉い温度緩なるを以て之を沸かし始めて浴度ゑ適す。浴室い麓ゑ五町計りの處ゑあり、歩して登る可し。此の温泉の効ある諸病い、小兒胎毒、芥癬或は疝氣、疝癪等ゑして、春夏の頃浴客頗る多し。

氣車香椎を發すれば、暫くして鐵路い青松白砂相連なるの邊を過ぐ。是即箱崎の地藏松原として、列車止まる處を箱崎驛とす。

箱崎驛

箱崎驛い、博多停車場を距る僅かに一哩餘、九州鐵道第十一次の停車場なり。此驛は有名なる箱崎八幡宮の鎮座在す處にして、村に柏屋郡役所あり。又海岸の絶景春花秋月は勿論避暑觀雪の遊に適するを以て、乘降の客亦頻繁なり。旅客若し遊覽の志あるものは此驛に下車して箱崎八幡の英靈を伏し拜み、地藏松原千代松原等の絶景を賞し、歩して博多東公園に到り、小休して博多町に出て、而して次刻の列車を待受くるも一興なり。

箱崎八幡宮　箱崎停車場接近の邊なれば、旅客は直ちに參詣するを得へし。抑も此神社は九州屈指の大社にして、社格官幣中社に位し、遠く天平寶字三年の創建に成り、八幡大神神功皇后玉依姫の三神を奉祀し、歴代の天皇世々の國主に尊崇され玉ふこと舊記に著し。其山門は文祿年中小早川隆景の此國を領するの初め建立する所にして、敵國降伏の大額は名ゑし負ふ延喜帝の勅筆なり。社殿廻廊尤も壯嚴。西向きに鎮座して博多灣に臨み、遠く外海を眼下に下瞰す。傳へ聞く此地は古へ外賓來る地なるを以て、殿堂樓門の構造殊に



廟門岌築面長濶。仰視彫題照碧灣。

箱崎八幡宮樓門

美を盡し、山門の如きは更ちに一本の釘を用ひず、其功妙實に世に稀なりと云ふ。今の殿堂は天文年中大内義隆の建立せる處にして、天平寶字より此頃に至る迄、國家多事社殿炎上に逢ふことしば〳〵、一時は之を興立する人あく、三十年か間假殿に渡らせ玉ひし事さへあり、其後の國主に至り漸々造營を勵み、今の壯嚴を致せりと云ふ。天正十五年の夏豊臣秀吉九州を征し、凱旋の時、此宮に神躰未た移り給はさりしかは、本陣として二十日計り逗留せし事あり。小早川隆景黑田長政等の此國に主たりしは即其後の事なりと知る可し。賴山陽詩あり、

長倚神威伏戎狄。　新羅高麗指揮間。

標の松は、八幡宮の社前にある神木にして、玉垣を以て之を繞らし、人の觸るゝを許さず。其因緣と云ふをきくに、神功皇后宇美にて應神帝を產み給ひし時、胸衣を箱にして此所に埋させ給ひ、其標に松を植へ玉ふ、故にしるしの松とも箱松とも云ふと云へり。今の箱松は文永二年二月十一日御社炎上の時前の箱松燒けて其後の灰の中より二葉なる松一本生へ出て年を經て斯く成長したるなり。古人の歌に、

千早振神代に植へし箱崎の松はひさしきしるしなりけり。　法印行清

跡垂れて幾世なるらむ箱崎のしるしの松も神さびにけり。　剛朝

此社はかゝる大社なるを以て、祭日の如きは遠近來り詣づるもの雲霞の如く、左しもに廣き松原も幔幕を打廻はし、行厨を開らひて笑ひさゝめく老幼少壯の男女幾百千。其賑合ひ筆にも盡くし難し。殊に博多市街の民は、商工凡て家を閉ぢて參詣することゝ、昔も今も變ることなし。毎年舊曆八月十五日より五日間放生會を行ふ。是れ即ち大賑合ひの時なり。」

地藏松原、米一丸の塔　地藏松原は、箱崎の町端れより北の方に當り、海岸の白砂に沿ふたる十町計りの間なる松原なり。松原の中に地藏堂あり。平重盛公育王山に砂金を贈られし其歸船に載せ來りし佛ありと傳ふ。又此松原の中に米一丸の塔と云ふあり。其因緣を聞くに、昔駿河國木嶋長者の嫡子に米一と云ふものあり。容色麗美の妻を娶る。京の一條某の

家人之を羨み、其妻を得んと欲し、米一を欺いて筑紫の博多に下だし、人をもて之を殺さしめんとす。米一從者と共に戰ふて叶はず、遂に此松原の中にて自害す。後ち妻なるもの之を聞き、慕ひ來りて亦た此處に自害す。村民哀みて塔を立てゝ之を弔ふと云ふ。

千代松原、利休の松　箱崎の町端れより西、博多石堂橋に至る十町餘、海灣に沿ふたる松原を千代の松原と云ふ。青松相連なりて更らに一株の他木を雜へず。白砂相連なりて一点の塵なく、眺望亦富めり。中に利休の松あり。天正年間豐臣秀吉九州に下り給ひし時、此濱にて幽齋休夢利休等の雅人と茶を酌み歌を詠じ玉ふことあり。利休の松は、即ち利休居士が茶釜を釣り、松葉を燃して之を煎したる故事により、此名今に傳れり。

千代あつき日に此木のもとに立寄れば波のおとする松風ぞ吹く。　秀吉

松陰に涼み暮らして短夜の明るをおしむ箱崎の浦。　休夢

敷島の道すなをなる御代に逢て惠みひさしき箱崎の松。　幽齋

嵐車鮑崎停車場を發すれば、旅客は玻窓を透ふして、青松林の如く翠滴らんと欲するの雅景を點檢し去り、忽ち博多停車場に着すべし。

博多驛

博多驛は、福岡縣筑前國福岡市博多町にあり。九州鐵道第十二次の停車場にして、福岡市

街博多市街の繁盛と共に乘降の客尤も頻繁なり。今左記の各項を讀み福岡市の地形風土及名勝古蹟の在る所を知れ。

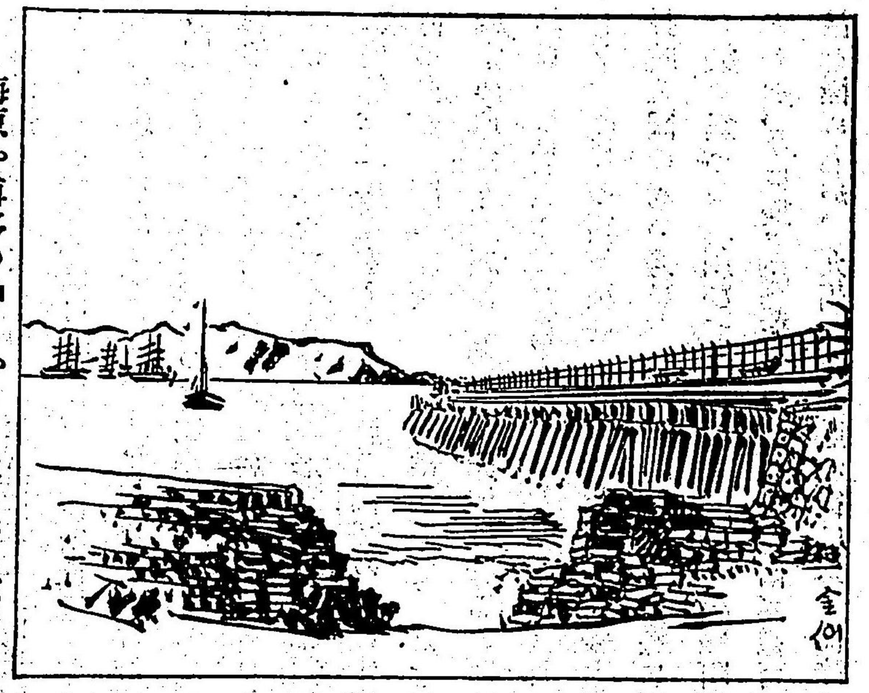
福岡市の記

福岡市は、筑前國那珂早良二郡の間にあり。福岡縣廳を置かるゝ處たり。地形北面一帶福岡灣に臨み、荒戸山西方に聳ち、御笠川樋井川市の東西を限り、那珂川薦川市内を貫流し面積五百町歩、戸數九千九百、人口五万千六百余、博多の良港を控へ、鐵道滊船の便を有するを以て、商工益々殷賑に赴くの景況なり。市街を分つて福岡博多の二區とす。今其各區に就ひて聊か記する所ある可し。

福岡市街　福岡は元と福崎と稱し、那珂郡警固村に屬せしが、慶長年中黑田長政筑前を領するに及び、此處に其治城を築く。是れ福岡の始めにして、市街那珂川を隔て、博多町に接し、北は福岡灣に臨めり、福岡城の址は、市の南方に位し、今は其石垣を存するのみ、第六師團歩兵第廿四聯隊の兵營となれり。長政在城の始めは、今の福岡市街と稱する所、市坊僅かに二十三、廓内の市坊は十七に過ぎず。其頃他國人の城下を過くる者は、六町通りとて、今の簀子町大工町呉服町西名嶋町東名嶋町等其大道たりしと云ふ。六丁通りに沿ふて橋口町魚町萬町州崎町鍛冶町西職人町東職人町濱町船町材木町湊町あり。以上即ち古

への城廓内にして、廓外に唐人町新大工町西町藥院町紺屋町春吉町あり。桝方は即ち廓門にして、今天神町橋口町に屬し、西中橋の前にあり。其左右那珂川に沿ふたる長き石堤は、即ち城廓の域境にして、博多市街と全く其域區を異にせしが、明治八年福岡縣廳新築の際桝方門より南の石壘を取つて建築の用材とし堤防跡地を縣廳警察署電信局の敷地となせり。明治廿一年又た桝方以北の石材を取つて那珂川埠頭延長の工事をなし、其堤防跡を新道となせり。此に於て全く城廓の形を變し、福岡博多の區域を除き去れり。市内は諸士商估の家宅等區域嚴正なりしも、廢藩置縣の後は士庶各町に雜居し、目今博多と共に繁榮せり。

博多市街　博多は最も古き市街にして、之を史書に徵するに、大宰府設置の頃は既に人烟稠密の地たりしが如し。抑も此地は往昔外賊襲來防禦の爲めに屯兵を多く置かれたる所なれは、近世まで四方に要害の跡を存したり。即ち北一面は皆石壁にして上古より此要害ありしを、弘安の頃修補せしなり。此故に博多を名附けて石城府と云ふこと諸史に見へたり。長政入國の初め迄は、博多箱崎福岡の海邊に石壘殘りて有りしに、慶長六年福岡城の石壁を築く爲めに取用ひて今は無し。今の呉服町蓮池町近傍の溝渠は其昔袖港と稱する入海なりしが、今は斯く變遷したりと云ふ。爾來數百年の今日に至るまで九州屈指の良港として繁昌を極めしが、九州鐵道開通の後は殊に海陸の便を有するを以て、出入の旅客益々多きを



海原や博多の沖よかゝりたる唐土船よときつくるなり。

加へ、商工日々よ進歩の景況なり。明治廿二年市制實施よ付き、那珂郡春吉村の内東中州新地馬場七軒屋裏川添及同郡犬飼村の内出來町堀田堅粕村の内石川下を割ひて博多よ屬せしめらる。博多及袖の港のこと故人の詠歌多し。今其二三を摘載す、

港　惟宗忠宗

浪こゆる袖の港のうきまくら
うきてぞ獨ねはなかれける。

後深草院小將内侍

れもひつゝいはぬはいとゝ心のみ
さわくは袖の港なりけり。

後鳥羽

船出せゞ博多はいつこ對馬にはしらぬ新羅の山そ見へける。　國基

官衙及會社銀行　當市内よ於ける諸官衙及會社銀行等の重立ちたる者を擧くれい左の如し

福岡市街よ在る者

福岡縣廳	天神町
福岡區裁判所	土手町
尋常師範學校	荒戸町
福岡病院	東中洲
同測候所	同上
福岡郵便電信局	橋口町
福岡大隊區指令部及監視區	大名町
第十七國立銀行	橋口町
福岡集產場	橋口町
福岡日々新聞社	橋口町
久德社	笠子町
福岡地方裁判所	大名町
福岡衛戍	大名町
修猷館	大名町
福岡縣勸業試驗所	同上
福岡市警察署	天神町
福岡大林區署	天神町
博多長崎稅關出張所	下對馬小路
米商會所	中對馬小路
筑陽社	天神町
福陵新報社	橋口町
星文館	下名島町

博多市街に在る者

米穀會社　下對馬小路
筑前水産會社　中對馬小路
教樂社　御供所町
博多勤工場　橋口町
東京博聞分社　中島町
内國通運會社支店　中島町
福博製靴會社　中島町
中嶋精米所　中嶋町
大一精米所　大濱二丁目
九州運輸會社　馬場新町
博多集産會社　樹町
永樂社　東中州
三井物産會社出張所　下對馬小路
大坂商船會社支店　下對馬小路
共文社　中島町
筑前鐵工會社　大濱四丁目
大濱精米所　大濱三丁目
筑前精米會社　御供所町

出入船舶　九州鐵道の開通以前は、流石よ繁盛の良港なれど、定期航海の蒸船は勿論、商船の出入も賑やかなりしが、滊車開通の後は、定期航海の滊船なきよ至れり、然れども帆船商船の出入する者は益々多きを加ふると云ふ、回漕店の勉强する者は石田屋古賀文其他二三あり。

旅店　旅店便利の爲め中等以上の旅店を記すれば、松島屋(中島町)古賀文(仝上)京屋(仝上)石田支店(橋口町)三島屋(上濱口町)山城屋(?)今任(上對馬小路)大黒屋(川端町)

紅勘(仝上)海容館(濱口町)等よして、現今定むる所の宿泊料及晝食料は大概左の例よ依る。

宿泊料

壹等	金壹圓	
二等	金七拾五錢	
三等	金五拾錢	
四等	金四拾錢	
五等	金三拾錢	

晝食料

壹等	金五拾錢
二等	金三十五錢
三等	金二拾五錢
四等	金二拾錢
五等	金十五錢

料理店　は博多石堂橋の東新茶屋近傍よ多し。又た東公園内の一方亭東中州の福村樓等は尤も大なるものなり。

産物　當地よては名産として數ふ可きもの亦た少なからざれども。就中博多織は其尤も有名なるものにして、全國到る處是を賞賛せざるなし。帶地煙草入紙入等年々京坂地方よ向ひ輸出するもの、實よ五萬の多きよ上ると云ふ。之よ次きて卵素麺等旅人の求むる土産物産よ適當なる可し。

以上旅客必要の事項を略記したれば其他は各自の探聞よ任かせ置き、是より名勝古蹟或は遊覽の地を案内すべし。

福岡城　始め黒田長政筑前の國を領するや、名嶋城に據りて國政を司どると雖とも、名嶋は偏僻にして永く大國を領するの城にあらずとて、慶長六年那珂郡警固村字福崎に地をトして城を築く。是れ即ち福岡城にして、長政の曾祖父右近大夫高政備前の國福岡と云ふ地に生れたるを以て、取つて以て城名となせり。今は唯其石垣の幾分を殘すのみにて、歩兵第二十四聯隊の營所となりぬ。

警固宮　は那珂郡警固村にあり。福岡市街接續の處なり。此社は警固大明神と小烏大明神を鎮座する宮にして、警固大明神は元と福崎の山上に在り。慶長六年長政城を築きし時之を下警固村の山の上に移し、後ち亦慶長十三年小烏大明神と同社に崇め奉ると云ふ。警固大明神は、神直日命大直日命八十枉津日命の三神にして、小烏大明神は、建角身命なり。即ち中座を警固大明神、左方を小烏大明神白山權現とし、右方に神功皇后八幡大神を祭る。今は更に國主黒田如水長政の二公を社内に祭ると云ふ。

櫛田神社　博多社家町にあり。祭る所の神三座。中殿は櫛田大明神、左殿は天照大神、右殿は祇園大明神なり。櫛田社は孝謙天皇御宇河内國櫛田社を此處に勸請せる者にして、天御中主命十八世の孫彦久良伊命の御子大若子命なり。又祇園社は素盞嗚尊にして。朱雀院の御宇藤原純友誅伐初度の追討使小野好古朝臣之を山城國より勸請す。天照大神を合祭せ

しは何の時なるやを知らず。毎年六月十五日祇園の祭禮あり、遠近參集する者多し。此社昔い南向にして往還に向ひたるが、今は社地は其儘にて門を寅の方に向け奉れり。傳へ云ふ、元弘三年肥後住人菊池入道寂阿手勢百五十騎を以て筑前に入り、探題北條英時を攻めんとて馳せ上るとき、寂阿が馬櫛田社の前に至りて一足も進まず、菊池入道大に怒りいかなる神にても寂阿が戰場に向ふ乘打を咎め給ふやふやある、其儀ならば矢一筋參らせんとて、神前の扉を二矢まで射たりければ、馬即ち進む。後此故を以て神殿の方向をかへ以前の門を裏門とせりとなん。其時菊池入道が詠みたる歌なりとて、

武士の上矢のかぶら一すじに思ひきるとは神は知らずや。

寂　阿

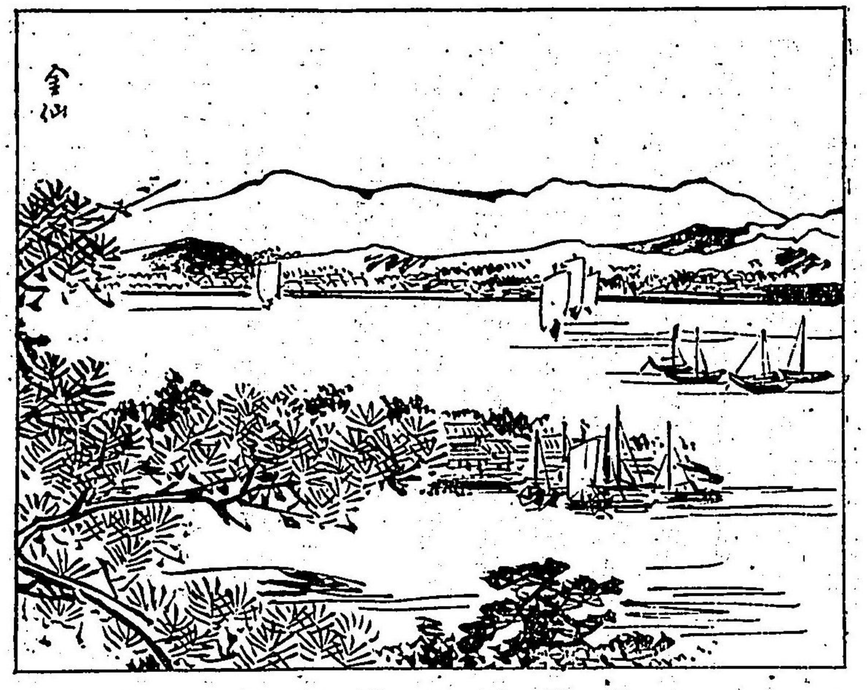
綱敷天神　博多綱場町にあり。菅亟相左遷の時袖港にて船より上らせ玉ひ、海邊にて敷かせ給ふ可き物もなく佇立するを見、船人等船の綱をたくり、之を輪の如く重ねて敷かせ參らせける。後に此所に御社を立て綱輪天神又は綱敷天神と稱す。慶長以前は此社袖港の入海の側にありたり。十一月二十五日を祭禮とす亦た盛祭なり。

聖福寺　博多金屋小路にあり。此寺は古より有名の大寺院にして、參詣の旅人常に絶ふることなし。安國山と號す、開山の師榮西朝廷より千光國寺の名號を賜はり、宋に入りて禪法を修め、歸朝して時の大將軍源頼朝に言上して建立す。我邦の禪法初めて興隆すと云ふ

寺よ扶桑最初禪窟の額を寶藏す、後鳥羽院の宸翰あり、頼朝は開基の大檀なれば中古より今よ至るまでその位牌を安置し、忌日毎に讀經怠ることなし。此寺よは小早川隆景の石塔位牌及富士の裾野よて曾我兄弟よ討れたる工藤内が墓あり。旅人の遊覽よ意あるもの此山門を訪ふ亦た一興なる可し。

東公園　博多の東端石堂橋より數町千代松原一名十里松原の中央よあり。明治十年開て公園となせり。開豁の眺望あしと雖も、青松相連りて境を知らす、白砂相接して塵を交へす閑靜の別天地なれば、春の花秋の月はいふもさらなり、夏の涼みなどよは此上なき遊戯場とす。園内官軍戰死の碑あり。今又た元寇紀念碑建設の企てあり、愈成るの日は一層の見物ある可し。園内處々よ茶店ありて菓子を賣る。又た一方亭と云ふあり、和洋の料理を調進す。

西公園　は、福岡の西端海邊荒戸山にあり。土地高燥、滿目の好風景、得て言ふ可からず近くは博多箱崎の松福岡の市街を眼下よ指點し、博多灣の帆船往來する處奈多が濱志賀嶋の絶景凡て是れ庭園を眺むるの思ひあり。遠くは玄海の洋々たる波濤ちかよして涯りなく知らぬ新羅も見ぬ唐土も猶其先きよ有るが如く遙けき人の國までもまのあたり見るの思あり。東公園の眺めよ比すれば亦た格別よして、徘徊顧望して去るよ忍ひず。公園の稱を附



福岡西公園眺望

せしは、明治十四年以來なり。されど荒戸山の眺めとて古人の詠歌も少なからす。亦此山上よは近き頃まて小山の東照宮とて黑田忠之より建立したる東照宮の神殿あり、山腹に松源院とて大きなる天台宗の寺院ありしが、今は東照宮を警固宮よ遷し祀り、跡よは荒津神社とて神武天皇と金比羅大明神を奉祀せり。』住吉の築堤

博多の町端れより那珂川よ沿ふて住吉神社よ至る間築堤の計畫あり櫻樹を植へて遊覽場を作るの目的よて、目下有志者奔走中なり。

博多柳町　は、此地の遊廓よして、此地よ遊女ありしは最も古きことなり。長崎丸山は初め柳町夷屋より出店せしものと

云ふ。柳町昔は須崎の濱よりありしを、慶長の頃今の地よ移せり。寛文八年十月薩麻屋より出火し夜見世禁止となりたることもありしが、今は斯かる習慣なし。數年前まで廓内狹隘よして戸數亦た多からざりしも、明治廿二年以來株式會社の組織よて、比惠川敷地の西邊を埋立ての工事よ着手し、廿四年よ至りて竣工し、其埋立地一町九反餘石塘二百十餘間爾來大よ面目を改めたり。此地の遊廓は數年前豊筑諸炭山盛況の頃は頗る賑ひしが、今は甚だ盛大ならず。又九州中よて町藝妓を許可しあるは、福岡及長崎のみなるが、此地の藝妓は多く相生町及新茶屋邊よ居住す。

遊女明月の碑　享保の頃、博多柳町遊女屋薩麻屋の抱妓よ明月なるものあり、深く佛を信し万行寺の僧正海法師よ請ふて誨を受け信心怠らず、死するよ及んで万行寺よ葬らんことを遺言せり。即其言よりて之を葬ると云ふ。幾何もなくして蓮花其墳墓の上よ出つ、怪んで之を堀れは其根死せる明月の舌より出づと傳へぬ。此暮今猶万行寺（祇園町）にありて其蓮花及遺物たる蜀江錦の帶も此寺よ保存す。明月の碑文よ曰く、

當享保元龜間。有雲雨明月者。置躬博多柳町。衒舍其美傾九州矣。然心切出　。從吾万行寺中興正海法師受誨。深信弘願舞踏無疆。天正戊寅春明月感病逝矣。遺言曰死葬我万行寺。亡何蓮出其墳上。人怪堀之根其舌。世人所謂万行寺明月蓮即是也。及十二世正贊師時忽失其蓮所在。師室磯野氏。一夕感化。女來授蓮請授所失蓮。後數之所失蓮復見於是。贊師櫃二蓮傳焉。明月初有帶蜀江錦也。受誨之日寄之於海師以謝恩。其帶及蓮今尚存焉。曇龍曰（中略）是歳文政丁亥之春。正是二百五十諱辰。以故柳町父老追脩法筵重起其墓。請余銘々曰

嗚呼奇哉月子之來初投憂流舌吐蓮後授瑞蓮覺世眠嗚呼不群月子之蓮正覺實蓮華自此開冷泉吐蓮舌潮音至今響之筵邈矣三百祀骨腐……新今人追起墓往事如眼前將來千歳下莫忘同小傳

万行十七世　釋　曇龍　撰

又柳町薩摩屋の抱妓よ昔し小女郎と云ふ者ありけるが、父の仇を廓内よて討取る。今其事蹟を略す。墓ハ草屋の宅後よあり。

斯くて汽車博多停車場を發し、御笠席田諸郡の山何時の間よか雲を排して現れ來るを見る次は則ち雑飾隈驛。

雑飾隈驛

雑飾隈驛は、九州鐵道第十三次の停車場よして、其町停車場を距ること十町餘なり。戸

數三百、人口千五百餘、那珂御笠席田郡役所亦此處にあり。國道に沿ふたる驛次なれば旅人の出入も少なからず。今直に名勝古蹟二三を案内せん。

御笠森　停車場を距る凡十二町計り大野村大字山田に御笠ノ森と云ふ古蹟あり。傳へ云ふ神功皇后羽白熊鷲を討ち玉ふ途上、一陣の狂風御笠を吹き飛ばし去つて此森に懸れりと。此近傍を御笠郡と云ふも是より起りしことにて、此處を御笠ノ森と稱へ來れり。今は二株の楠木のみ殘りぬ。古歌に、

大野なる御笠の森のゆふたすきかけても知らし袖のしぐれは。　津守國冬

大野なる御笠の森に時雨ふり染なす紅葉今さかりなり。　讀人不知

寶滿宮舊址　停車場より凡そ二十五町大野村大字中にあり。其地を御陵と云ひて韓人の池御劍の塚などあり。又御陵の如き少丘ありて土人玉依姫の御陵なりと云ひ傳ふ。

安德天皇行宮址　停車場を距る凡そ一里二十町那珂郡安德村森木の岡にあり、今は御所の原と云ふ。此岡の上に岩戸少鄕原田種直が邸宅の址あり。行宮の址も此原の内にあり。

宇美八幡宮　此社亦た有名の八幡宮にして、遠近其靈驗を慕ふて來り詣つるもの多し。停車場より一里半餘の邊にあり。謹んで此宮の因緣を聞くに、昔神功皇后此地に於て應神天皇を產み玉ふ。是れによりて宇美八幡の稱あり。古へより產神なりとて婦人の參詣するもの多し。今祭る所の神は五座、中殿に八幡大神、左座神功皇后寶滿明神、右座住吉大神太祖權現を祭る。神殿の遙か浦に胞衣の浦と云ふあり、御胞衣を箱にし奉りたる所なりとなん。又た社内に大なる槐あり、玉垣を結び境を築けり、傳ふ皇后御產の時に此木の枝に取り繩らせ玉へりと、依て之れを子易の木とて尊崇し奉り、臨產の婦人之を取用ひて安產を祈る。毎年舊曆八月十五日を以て大祭を行ふと例となしぬ。

二日市驛

二日市停車場に、筑前國御笠郡二日市町にあり。九州鐵道停車場の第十三次に當り、最も名勝古蹟に富み、風土身に適し、人口亦繁殖の地なれば、乘降の客頗る頻繁にして、九州線中の一好驛と稱せらる。

竈門山神社　此山に筑後國の中央に聳ゆる高山にして、九州屈指の大山なり。山上まで福岡より七里、大宰府の鳥居より二里、有智山より一里許り。一名寶滿山と稱す。此山古へより筑紫の總鎭守なりと稱せられ、峰高く霧深く、烟氣常に絕へず。滿山岩多くして良工の削り成せるが如く、誠に奇絕の境地なり。山上に登臨すれば近國の諸山眼下に歷々として悉く一望の中にあり。西北には壹岐對馬の諸嶋遙かに見へ渡り、春光秋色云ふ可からず

山中春は櫻花多く秋は紅葉多し。惜哉斯る奇勝の名山も偏僻の地よありて知る人稀なり。山上よ竈門神社あり、玉依姫を祭る。十月初午日祭禮あり。峰の東よ益影の井、及竈門石等の靈泉靈石あり。其外兒落しの岩妙美水獅子瀧馬蹄岩抔の靈跡多し。古人の歌よ、

かまと山また夜をこめてふりつもる峰の白雪明てこそ見め。　大江匡房

ちる度ひろへどかれても惜きかなかまどの山のひさくらの花。　道信法師

降はふれ御笠の山し近けれは簑嶋まではさして行かなん。　檜垣姫

春はもへ秋はこがるゝかまと山霞も霧もけふりとそ見る。　連歌下句元輔

有智山の寺址　停車場より凡そ一里、大宰府町大字内山よあり。有智山寺は嵯峨天皇弘仁九年傳教大師建立建武三年兵燹よ罹り絶滅す。此山の林中竈門山の下宮あり。其麓の通路の傍ある大字北谷よは有名なる刀鍛冶金剛兵衛盛高入道紹翁が墓あり。石塔の形は刀の心の形なり。

太宰府舊址　停車場より路程凡そ二十町水城村大字觀世音寺の西よ築山と云ふ小山あり。其西の田の中よ大なる礎石多く殘れり。是即大宰府の址なり。此里を御笠の里と云ひ、貞享年中觀世音寺を再興せし時、多く其礎石を取用ひたり。南よ大門の址、北ゐ都府樓の址あり。其礎は皆方六尺餘柱を立てし所は平らかよして、徑二尺一寸或い二尺五寸あり。鎮

西府と云ひしい即此處なり。此邊は今凡べて耕地となり、僅かよ其礎石の今存する處のみ開墾を許さず、大なる紀念碑を立てゝ其舊址を存す。石碑の篆額は有栖川熾仁親王の筆なり。

此邊亦た古瓦の片々地中又た地上よ殘れる者多し。即都府樓の瓦よして、異國より渡來せりと云ひ傳へり。今殘れるものは凡て少さき破片よて、大きなるは此地方の人家よ保存するものあり。宰府町旅人宿泉屋よ寶藏する者尤も美麗なりと云ふ。

觀世音寺　は即ち都府樓址の近傍よあり。古へ大寺院なりしと今尚ほ觀世音寺の村名となるを以ても想像すべし。其初めい遠く天平年間の建立にして年を經ること甚た久しく、數度の災火よ罹りて多く頽壞せり。今は其百分一よ足らざる小寺院なれども、院内十三の觀世音を鎮座す。其像偉大驚く可し。此寺の後の山古より清水を出すを以て、此寺を普門山清水山と号せり。又此寺よ掲ぐる觀世音寺と云ふ四大寺の額は、小野道風の書なりとて之を珍重せり。又た古來秘藏の釣鐘あり、菅亟相の詩よ『觀音寺唯聞鐘聲』とあるは此鐘なる可し。

觀世音寺の寺内よ戒壇院と云ふ寺あり。觀世音寺四十九院の一なり。孝謙天皇天平勝寶六年四月八日唐鑒眞和尚此所よて受戒を行ひ初めしとかや。左れは此處は大和の東大寺下野

の藥師寺と共ゑ日本三所の受戒所ゑて名高き寶刹なり。

四王寺山　又た大城山と云ふ。停車場を距る凡そ一里大木なき高山にして古昔麓ゑ大宰府の鎭城ありし故大城山の名あり。山上寺址あり、山号を圓滿山と稱し、大同年中の建立ゑして、寺ゑ四天王の像を安置し、僧四人をして法の如く修行せしむ。其斷絶したるは何時の頃なるかを知らされども今は其礎石のみを存せり。其四王寺の藏ありし跡とて、今は其處ゑ米の燒けたるが石となり炭のゑふなる形ゑて出つること尤も珍らしと云へり。

水城關址（みづきのせきあと）　今の水城村と云ふは即ち昔水城關ありたる址を稱することにて、停車場より凡ろ一里餘今の國道線路ゑ當れり。此邊の地形籠門山四王寺山大野山天拜山（てんぱいさん）等の山脈相連なり、三面を繞り、其三面平野ゑ向ひ、大宰府の要害として天智天皇の時此關を築きて中ゑ水を貯へ、稱して水城の關と云へり。今其堤を見るゑ、東の堤百五六十間西の堤三百二三十間草樹茂生して丘陵となりぬ。東西の堤の間絶へて堤無き所一町許り、堤の高さ五間、根盤二十七間、何の頃よりか堤の內い田となりて水を貯へず。誠ゑ世に類ひなき堤なる可し今其東の大路の筋ゑ門の址なる大なる礎猶殘れり。水城關とは此所か。今鉄道線路は西の堤を堀通して軌鐵を敷きぬ。故人の歌二三を左ゑ掲ぐ。

ますらをと思へば我や水くきの水城のうへはなみたのとさむ。　大伴卿

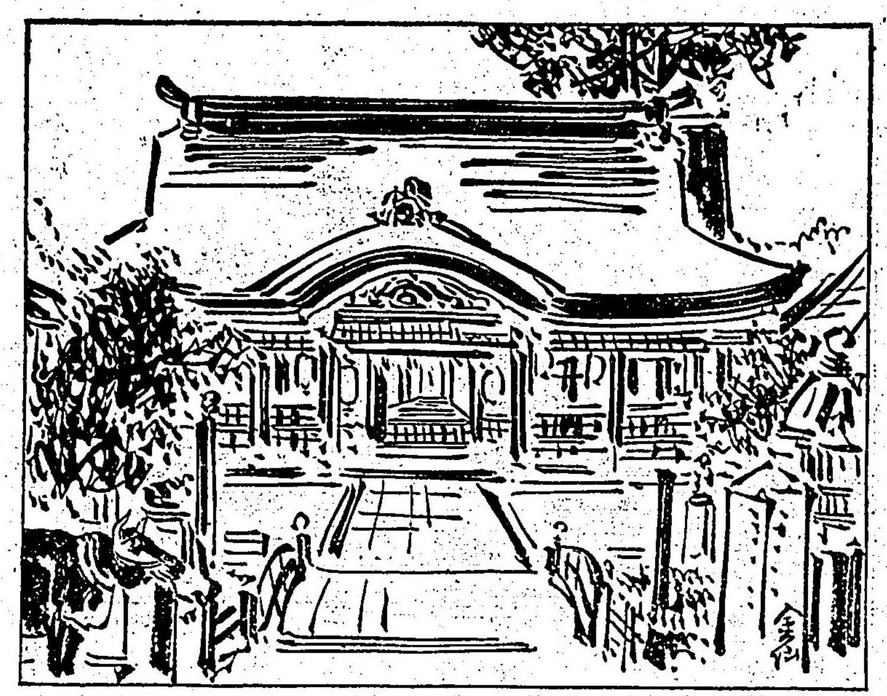
岩垣のみつきの關にむれ迎ふ
中のこゝろも知らぬもろ人。　大貳高遠

夕きりや立へたつらむ岩垣の
水城の關ゑ舟もかよはす。　光俊

刈萱關（かるかやのせき）の址　停車場より凡そ十五六丁水城村大字古賀の內關屋ゑあり。宰府守衛の爲め天智天皇の時置れたる關ゑて、近世まて其關あり。今ゝ宰府往還の道の西の側ゑ其址を存するのみ。宗祇法師の此處ゑて讀める歌あり。

敷ならぬ身をもいかゑと事とはゝ
いかなる名をやかるかやのせき。

天滿宮（てんまんぐう）　此宮ゝ即ち贈正大政大臣菅原道



眞公の靈を祭ること人の知る所なり。菅公は延喜三年二月二十五日御齡五十九にして太宰府にて終らせ玉ふ。延喜五年初めて安樂寺に公の神殿を建らる、同十九年に至りて神殿の造營終れり。是れ菅公を初めて神と崇め參らせし時作りし神殿なり。斯くて此時より天滿大自在天神の号を奉れるなり。之より代々の天皇世々の國主之を尊崇し、神殿廻廊年を追ふて壯大となり、又た回祿にかゝりし事も多かりけるが、神靈尊く在しませば今に其壯嚴衰へず。從來國幣社なりしも、維新の後は官幣中社に改めらる。霜枯れの時節と云へども參詣するもの、日に千を以て數ふと云ふ。左れは宰府町も年を經て

太宰府菅廟

賑やかなる町となり、富豪軒を並ふるに至るは此神の在せはなり。今試みに社内の景色を略記せんに、宰府町に入りて先つ壯大の鳥居をくゞり、道なる兩側なる櫻樹を眺め、社前に至れは山門の壯大浮殿の壯嚴先つ目を驚かし、猶進んで庭内の廣池には鯉魚躍り鴛鴦浮び龜鼈石上に眠る。其清絶佳絶實に云ふ可からす。池上架するに反橋二を以てす。池中に一小島あり。又橋を架す。池の廣さ周圍百八間、鉄柵を繞らす。神殿の前に至れは、壯嚴美麗宏大相備りて神威赫然、自ら敬肅に堪へさらしむ。園内亦た櫻樹及ひ梅樹多し。公の遺愛飛梅い神殿の前にあり。玉垣を結ひて之を護る。以上は社内の風景其一班にも足らさるもの。

亦た試みに近傍の名所及ひ山水の眺望を尋ぬれは、東に竈門山、西に天拜山あり。岩踏川北より西に環流し、大城山北に聳ち、葦屋の宿南にあり。觀音寺都府樓址水城關址其他の名勝舊蹟い、其近傍に散在し、林巒の眺望、原野の風景、凡て人目を娛ましめさるはなし左れば此宮の追儺祭大祭日等には遠近諸國より來り詣つるもの引きも切らす、鐵道會社も臨時汽社を發して參詣者を運ぶなり。

此の如く此社は有名の大社なるのみか、一千年來の古社なれは、珍奇の寶物甚多し。就中天平年間吉備公の唐より齎らしたる三聖の銅像追儺祭鬼面、明劉世儒の月梅の圖、兩龍山

の水瓶等は最も珍らしき寶物なり。拜觀を欲する者は保存金を寄せて之を請ふ可しと云ふ。

今當宮執行の祭日を此に記す、

追儺祭（俗に云ふウソ代へ祭りなり）　舊暦正月七日

春祭　仝二月廿四、五日

夏祭　仝六月廿四、五日

秋祭（神幸式あり年中の大祭也）　仝八月廿二日より仝二十五日に至る

天拜山（てんはいさん）は停車場を去る凡そ三十町二日市村大字武藏にあり。竈門（かまど）山と相對して有名なり山巔に一本の大松あるを以て、天氣朗なる日には數里の外よりも此山を認むること易し。

此山は即ち菅公の左遷せられ玉ふ時、麓の瀧水に行をなし山上の石に登りて天を拜して其罪なきを訴へ玉ふたる所なれば、後世天拜山の稱を呼ぶと云ふ。山路稍嶮なれども登臨すれば遠近の山野眼下に歷々として遠く博多灣の水を望み、絶景亦た實滿山（はちまんやま）に劣らざる者あり。山の麓に温泉場あり、武藏の湯亦たは湯町の温泉と云ふ。

湯町の温泉は、其初め天武天皇白鳳二年藤原虎麿之を發見す。今は一の市坊を爲し、旅店商估相連れり。浴場は稍廣くして旅館中に浴場を有する者あり、便利なり。されとも其清潔なるとは久留米の船小屋に劣れり。温泉は透明無色硫化水素臭を發し、反應は微亞留

加里性を徴す。比重攝氏十二度にて一、〇〇二。其成分中にはコロールナトリユーム、炭酸ナトリユーム、珪酸、コロール加留莫、其他を含有し、外浴と内服に適し、慢性リユーマチス、慢性痛風各種神經病及ひ疥癬黴毒の種類、下腹又は全身の充血喉頭及氣管支加答兒子宮、卵巣の慢性炎等に應用して効能あり。

此浴場近傍の旅店にては、紺屋港屋山本屋田代屋福見屋等を大なる者とす。

右各項記する所の外、此近傍に眞譽親王墓（北谷）大宰小貳宅址（内山）小貳資頼墓（觀音寺）高橋紹運の碑（岩屋）仝人の墓（般若寺近傍）國分寺（水城）續命院址（俗明院）其他の古蹟名勝擧けて數ふ可からず。

原田（はるた）驛

此驛は二日市より三哩を距る一小停車場なり。築紫神社城ノ山等の外亦記すべきなし。

築紫（つくし）神社　停車場を距る凡そ十一町計り。著名の神社にして、五十猛命を祭る。築紫廣門も該社の大宮司なりしと傳ふ。

城ノ山の古跡　城山は停車場を距る凡そ二十餘町大字萩原の上にあり。天智天皇四年八月に築かせ玉ふ處の椽城なりと云ふ。春花秋月の登臨に宜ろし。

田代驛

田代停車場は、九州鐵道第十五次の停車場として、佐賀縣の第一驛なり。旅客原田停車場を發して少時鐵道の右方に大石の建つを見る可し。是即福岡佐賀の縣界にして舊藩時代に立つる處の目標なり。

田代町　田代は佐賀縣養父郡の一邑にして、往昔天領の地なりしこと古史に見へたり。其後對馬守の領となり、石一万と稱せしは、百五十年以前よりのことなり。維新の後其代官所なども毀たれて跡なし。近き以前までは此町頗る繁昌せしが、明治十三年大火あり、町家悉く燒失し、其後建築相次ひて今は僅かに五百有餘の戸數を存せり。蠟及米を以て產物とす。

小松觀世音　田代停車場を距る一里餘小松觀世音あり。伽藍及仁王門ありて稍大なり。此觀音は昔小松大納言重盛の建立する處なりと云ふを以て、今に善男善女の偈仰する者多し亦た停車場より二十町餘の處に太田山と云ふあり。此處にも觀世音を鎭座す。

八坂神社　停車場の北四町餘の邊喬木叢薮として地を蔽ふを認むる者は即ち八坂神社にして、夏時の納涼と秋月の眺めに適す、祭る所の神は祇園大明神なり。列車は是より進行を

始め、亦た漸くにして運轉を止む可し、是即鳥栖驛なり。

鳥栖驛

鳥栖停車場　鳥栖停車場は佐賀縣肥前國養父郡鳥栖村にあり。九州鐵道第十六次の停車場にして、又た佐賀支線の第一停車場なり。左れは門司發の下り列車にて佐賀に向ふもの、熊本發の上り列車にて佐賀に向ふもの、佐賀より來りて門司の方へ上り、或は熊本の方に下らんと欲する旅客は、此驛に於て乘換る處なれは、荷客常に輻輳し、頗る頻繁の停車場なり。編者は先つ佐賀支線を後とにして熊本に到る各驛を案內し、終つて再ひ鳥栖驛より佐賀驛に至る各驛に就ひて、旅客必要の事項と其風土名勝古蹟等を案內すべし。依つて今此處に、略して直に次の驛に及ぶ可し。

久留米驛

久留米驛は、福岡縣筑後國の第一驛にして、九州鐵道第十七次の停車場なり。門司驛を距ること六十九哩七十一鎖、熊本驛を距ること五十一哩六十鎖の中間にありて、博多停車場より二十二哩四十鎖にあり。此驛は筑後國の大邑にして、昔有馬氏所領の城下たり。左れ

は其地形風土の喜ぶ可きもの名勝古蹟の探る可き者も少なからす。旅客匆々車を下つて案内者ゝ隨つて來れ。

久留米市の記

久留米市は、福岡縣筑後國の西端ゝして、南い三潴郡ゝ接し、東北は御井郡に連なり、西は筑後川を隔て肥前の國と相對せり。其沿革を繹ぬるゝ、永正年間を始めとし、天正中高良山座主良寛麟主の兄弟、次て小早川秀包、慶長中田中吉政の嫡子主膳正篠山城居城なりし頃より漸次街衢をなし。元和七年有馬氏入封ゝ及んで其規模を擴張し。西部大川ゝ瀕する洗町瀬ノ下町等人家稠密ゝ至りしなり。廢藩置縣の際三潴縣廳を置き、明治九年廢して福岡縣ゝ屬す。明治廿二年自治制施行に依り御井郡を割き市制を布く。現在の戸數四千四百四十四戸、人口貳万四千百四十一人。久留米絣及傘は此地の名產なり。

官衙公署及諸學校　の市内ゝ在る者は左の如し。

福岡地方裁判所久留米支部	篠山町	久留米區裁判所	仝上
久留米監獄支署	仝上	久留米警察署	兩替町
第六區土木監督署	篠山町	久留米郵便電信局	苧扱川町

筑後川改修工事々務所	京町	久留米市役所	兩替町
執達吏役場	篠山町	公證人役場	片原町 三本松町
久留米尋常中學明善校	篠山町	兩替尋常小學校	兩替町
莊島尋常小學校	莊島町	原古賀尋常小學校	原古賀町
日吉尋常小學校	日吉町		

諸會社及製造所　の市内ゝある者は左の如し。

久留米紡績會社	篠山町	赤松社	篠山町
京町貸金會社	京町	八坂會社支店	仝上
輕便鐵道會社	仝上	厚生社	田町
内田通運久留米支社	新町	華元社	新町
貸金會社	莊島、御島、櫛原、日吉、の各町ゝあり	傘製造所	篠山町
紡績糸製造所	篠山町久留米紡績會社	絣織立所	篠山町赤松社

旅店　市内旅店の中等以上に適する者い、苧扱川町の鹽屋、松屋等ゝして、其宿泊料は大概左の例ゝよる。

宿泊料	晝食料

一等　金七拾五錢　　一等　金三拾五錢
二等　金五拾錢　　二等　金二拾五錢
三等　金四拾錢　　三等　金二拾錢
四等　金三拾錢　　四等　金拾五錢

久留米絣の沿革　久留米絣は、此地の特有産物として、其名夙とに著はる。今其沿革を取調ふるに、天明の頃久留米市通外町に井上れ傳と云ふ一小女あり。千思万考新奇の織物を製せんことを欲して怠らず。或日白糸を絞結し之を紺染にし、其糸を解き、機に掛けて織りたるに、珍奇にして且妙なり、故に見る人之を名けて雪降又た霰織と云ふ。依りてお傳は發明の功あるを喜び、此織物を盛ならしめんことを企て、加壽利と唱へて販賣を爲したり是れ實に久留米絣の起原にして、お傳十五歳に及ぶ頃は略ほ其精巧を極めたるを以て、其門に入りて其術を習ふもの二十餘名に及べり。斯くて次第に盛大となり、三四十歳の頃に三百乃至四百の織工を集めたり。是より久留米絣の名四方の國々まで聞へ、今に至りて此地方の物産中の首となるに至れり。井上お傳の功績は此の如く蔽ふ可からず又た後人の忘る可からざる恩人なればとて、明治十八年の頃水天宮境内に紀念碑を建設せり。其撰文に當時の縣令岸良俊介氏の手に成りき。

此の如く久留米絣の名は古へより高かりしが、明治維新以來は殊に各國に輸出の道開らけ其製織の高も多かりしに、競爭の餘遂に粗製品を濫出するの徴あり、明治廿年縣達により久留米絣同業組合を創設し、其弊害を矯正して漸々販路を擴張し現今一ヶ年の産額五十万反に達せり。盛なりと云ふ可し。

以上旅客必要の事項を記去終りたれば、是より神社佛閣及名勝の地を案内すべし。

水天宮　停車場を距る四町餘、久留米市の西部瀬ノ下町筑後川の沿岸にあり。社格縣社にして、神体は神像に坐し、祭神は安徳天皇高倉平中宮二位時子の三神なり。毎年陰暦四月五日より同七日迄三日間大祭あり。靈驗特に著しければ遠近より參詣する者引きも切らざる賑合なり。今此社の沿革に就きて傳ふる所を聞くに、建久承元の際千代松明神の創建になれりと云ふ。千代松明神は大和國石上布流社の祠官某の女にして、建禮門院入内し玉ふ時從ひ奉りて宮内となり、按察使局と稱せしが、壽永年中平家の一族帝及び皇后を守護し奉りて西國に吟行し、明神に筑後國御井郡鷺野原に住みて今の梅林寺山に水天宮を創建せり。其後兵乱相繼き兵禍を避けて所々に宮を遷し奉りしが、慶安三年國主有馬氏今の處に遷しぬ。

高良神社　久留米市の東方一里半餘御井郡高良山上にあり。國幣中社にして玉垂命を祭る

玉を以て神体とす。何時の頃何人の創建せしやを詳ならせず。延喜式に筑後大小四座の大社なりとあり。國幣中社と定められしは、明治四年なり。毎年陰暦九月九日より三日間大祭あり。山上遠近の眺望に富み、春夏秋の遊覽に適當せり。

篠山神社　久留米市の西北隅篠山町なる篠山舊城内にあり。藩祖有馬豊氏朝臣中興有馬頼永朝臣の二靈を祭る所の縣社にして、鏡を以て神体とす。位地篠山の城址に位し、久留米市街近傍の風景を一目の内に集め、遠くは雲霞の間に寶滿山天拜山の峯巒を望み、又た筑後川の長流南に向つて走るの絶景を見る。春光秋風の眺め、避暑觀雪の遊び、凡そ四時の遊覽に適す。殊に鉄道停車場を去ること僅かに六町に過ぎざれば、旅客の寸時の閑を以て車を驅るを得べし。

梅林寺　久留米市の西部京町にあり。停車場を距る僅かに二丁餘筑後川の沿岸にして、又た風景の目を娯ましむる者あり。此の寺の元和七年舊藩主有馬家祖先玄蕃頭豊氏の創建する所にして、往古丹波國福智山城主有馬氏元和六年入國して當地に移轉食邑として三潴郡横溝村の三百五拾石を寄附せられたりと云ふ。本尊は如意輪觀世音にして本山妙心寺末臨濟宗妙心寺派なり。明治五年社領を廢し、明治十五年境内に三十三ヶ所の觀世音を創建す。

高山正之の墓　の市内寺町遍照院にあり。停車場を距ること十町餘旅人の來り訪ふもの常に絶へず。正之は勤王の名士、字の仲繩、彦九郎と稱す。上野國新田郡細谷村の人にして天下を跋渉し有志の徒を皷舞す。而して世の罔極に遭ひ、寛政五年筑後國御井郡櫛原村森嘉膳宅に於て自刄して死す、年四十七歳。

筑後川　は九州第一の大河にして、源を豊後の山間に發し、筑後筑前諸郡の水を合せ、久留米に至りて寶滿川と合し、又た肥前筑後の間を流れ、若津港に至りて筑紫潟に注く、延流三十里。其の間或は落ちて千丈の瀑布となり、或は積んで蛟龍の淵となり、激しては急流直下、『兩岸猿聲啼未住、扁舟既過萬重山』の眞景となり、實に筑紫太郎の名に耻ぢず。

正平十四年巳亥歳肥後勤王の名族菊池武光征西將軍懷良親王を奉して足利氏の黨大友小貳の二氏と大に此河の邊に戰ふて之に克てり。頼山陽嘗て此河を下り、長句を歌ふて鬼雄を吊ふ。今之を載録して旅客と共に同情を歌はんと欲す。

下筑後川過菊池正觀公戰處感而有作　　頼山陽

文正之元十一月、吾下筑水流如箭萬雷吼、過之使人竪毛髮、居民何記正平際
行客長思巳亥歳、當時國賊擅鴟張、七道望風助豺狼、勤王諸將前後沒、西陲僅存臣武
光、遺詔哀痛猶在耳、擁護龍主同生死、大擧來犯彼何人、誓滅之報天子、河亂軍聲代銜

枚、刀戟相摩八千師、馬傷胃破氣益奮、斬敵取胃奪馬騎、被箭如蝟目眥裂、六萬賊軍終挫折、歸來河水笑洗刀、血迸奔湍噴紅雪、四世全節誰儔侶、九國遂巡征西府、棣蕚未冐向北風殉國劍傳自乃父、嘗卻明使壯本朝、豈與恭獻同日語、丈夫要貴知順逆、小貳大友何狗鼠河流滔々去不還、遙望肥嶺響南雲、千載姦黨骨亦朽、獨有苦節傳芳芬、聊吊鬼雄歌長句猶覺河聲激餘怒、

長句吟して未た終らず、列車走ること箭の如く、一聲の汽笛頭を擧くれい、羽犬塚驛あり

羽犬塚驛

羽犬塚停車場は筑後國上妻郡羽犬塚村にあり。九州鐵道第十八次の驛にして、福嶋町を距ること凡そ二里。此近傍は更らに旅客を伴ふに足る可き名所なく、又た舊蹟なし。只た船小屋の礦泉は尤も消閑の勝地たり。

船小屋の礦泉は羽犬塚の停車場より二里、久留米停車場より三里計り、矢部川の岸に沼ふたる一閑地にして、清麗なる含鐵炭酸泉を出すを以て、四時の浴客を當て旅店軒を並らべ、商家又た日用の求めを缺かす。川に鮮鱗あり、山に鳥獸あり、實に是れ桃源の別天地なり。加ふるに此邊は最も螢多きを以て、夏時に至れば猶一風流を增す。避暑の候に

至れば旅店の不足を告ぐるに至るべし。今旅客便利の爲め旅店の稍可なる者を案内すれば玉振館、竹水館、小柳等なり。此礦泉は內服外浴共に賞用せられ、主として飲用の目的に効あり。其適症は貧血症、痔疾等尤も功あり、今福岡縣に於てせる分析表を見るに左の如し

一炭酸	多量	一格魯兒	小量	一硫酸	少量		
一加留基	少量	一麻侖矢亞	痕跡	一鉄	多量		
一那篤倫	痕跡	一加里	痕跡	一亞硝酸	痕跡		
一有機質	痕跡						

福嶋町は上妻郡の一名邑にして、鐵道開通以前は頗る繁昌の宿驛なりしも、今は旅客の足を停むるもの少し。然れども地勢自ら近傍郡村の商業地たるを以て、尙ほ其繁昌を失ふに至らず。茶及花莚に主要の產物なり。

羽犬塚停車場を發し、列車進むこと四哩弱、忽ち運轉の停まる所に矢部川驛なり。

矢部川驛

矢部川停車場は、筑後國山門郡にありて、瀨高町を距ること僅かに數丁、若津に至ること三里、柳河に至ること一里。共に繁昌の地なれば此驛に輻輳する荷客亦た隨つて尠からず

瀬高町は亦た一小市街として、主要の産物たる酒類は年々多額を輸出するを以て、巨豪の家軒を列らね、人口年々繁殖す。殊に鐵道開通後は旅客の出入も亦た頻繁なりと云ふ。

柳河町は停車場の西に當り、山門郡西北隅の一市街として、戸數千四百七十一、人口八千百六十三あり。此地は足利義滿執政の頃蒲地久憲氏柳河城に居りし時より漸く市街をなし、天正の頃龍造寺氏の領する所となり、德川氏に至りて田中吉政之を領し、元和六年立花氏之を復す。廢藩置縣の後三潴縣に屬し、後福岡縣に合併す。近年漸次商工進歩して市況愈よ〳〵賑かなり。

柳河城址は山門郡城内村大字本城町の中央にあり。永祿年間蒲池盛信の築く所にして、天正九年龍造寺隆信之を襲ぎ、仝十五年立花宗茂氏に屬し、慶長五年田中吉政之を取り、元和六年再び立花氏に復す。明治五年正月十八日本城火災に罹りて悉く燒失す。今は只其基礎を遺すのみなり。

官衙及會社等の柳河町にある者は。山門郡役所柳河町役場第九十六國立銀行柳河區裁判所柳河興産義社等にして、學校には私立尋常中學傳習館柳川高等小學校其他あり。

神社三柱神社は宮ノ内村大字高畑にあり。縣社にして戸次鑑連立花宗茂夫妻を祭る所たり。又た城内村大字阪本町に日吉神社あり。正應年中一農夫の創建せし一小祠ありしが、

蒲池治久の時之を取立てゝ城市の鎮護とし、田中吉政亦た之を再建すと云ふ。三柱神社は柳河に於ては先づ一等に位する遊覽の勝地にして、境内尤も廣く東南は沃野遠く相連なり四時の眺望甚だ佳なり。

佛閣の稍大なる者は、清水村の清水寺柳川町の西方寺眞勝寺城内村の福嚴寺等なり。

女山は、山門郡清水村大字大草にあり。有名の古跡にして建久四年曾我祐成弟時致源頼朝の殺す所となる。其婢虎兄弟の冥福を祈り、諸國を巡歴し此地に來り、兄弟の塔を亙泉山に建立し、女山に住すると云へり。

産物は柳河町にては瓦及鰻、瀬高町にては酒を以て重なるものとす。

其他記載の事項なきにあらざれども、餘り旅客各自の探聞に任せ、直ちに次驛に案内せん

渡瀬驛

渡瀬停車場は、筑後郡三池郡二川村にありて、渡瀬町を距ること十數丁、矢部川大牟田間の一小驛なり。

渡瀬町は一小村落にして、更らに名勝舊蹟の案内すべきなく、又た神社佛閣の擧げて語るに足るものなし。彼の停車場前の丘上に老松聳ふる邊一小社を認むるは、能勢神社とて此

村の村社なり。此地又た特有の産物なしと雖とも。多く素燒の土器を製造して各地ゑ販賣す。其製造所ゝ停車場の南十町餘の邊ゑありて竈十箇あり。

汽車渡瀬を發し、旅客ゝ玻窓ゑ倚りて右顧左眄、右ゑ筑紫潟を隔てゝ肥前の諸山を望み、左りゑ高低隱顯肥後の諸山を雲烟の際ゑ眺め來り、漸くゑして山上山腹の烟筒黑烟を捲くの壯觀を見るゝ三池礦山ゑして、氣罐車忽ち運轉を停むる所は、大牟田停車場なり。

大牟田驛

大牟田停車場ゝ三池郡大牟田町ゑあり。筑後國最終の驛ゑして、九州鐵道第二十一次の停車場たり。門司港を距ること九十哩三十一鎖、熊本を距ること四十四哩、乘降稍々頻繁なる停車場なり。

大牟田町　は海陸の便を占めたる一市街ゑして、人口年々繁殖市況從つて賑やかなり。現今戸數二千四百四十六戸、人口一万二千五百六十三あり。此の地ゝ元來海岸の一小寒村たるゑ過ぎざりしが、明治六七年の頃礦山局を置き、三池炭礦を開始してより、港頭ゑは石炭を輸送する數百の船舶輻湊し、陸ゑは鐵路を開らひて石炭を運搬し、從つて旅人の出入年々多きを加へ、漸次繁盛を來たしたり。明治廿二年町村制の實施ゑ際し、近傍數村落を

合せて大牟田町と名つけ、且市區を改正したれゞ、遂ゑ面目を一新し、今日の盛況を見るゑ至れり。今ゝ諸會社の起るもの年ゑ增加し、炭礦社紡績會社九鐵停車場警察署郵便電信局土木會社三井物産會社支店石炭商社三池集治監熊本縣監獄出張所等あり。又た旅店料理店の如きも稍々盛大なるものあり。

三池炭礦社　三池礦山ゝ元と政府直轄の山なりしが、明治廿一年中金四百餘万圓を以て三ツ井組之を願下けて私有としたり。爾來同社ゝ大ゑ資本を投じ更らゑ港灣を增築し、鐵道を敷設し、坑口を改良する等、大ゑ擴張する所あり。現今其坑數ゝ七浦、宮ノ浦、大浦の三所ゑして、一ヶ年の採掘は五拾万噸以上ゑ達す。目下修繕中なる勝立坑開始するゑ至らゞ更らゑ多數の增加を爲すべし。其廣大なること坑内ゑ鐵道を敷き、馬車を入れて運搬するを見て想像すべし。現今使役の坑夫は七浦坑ゑ於て集治監四千人宮浦坑ゑ於て熊本縣監獄囚二百人及良民二百人大浦坑ゑ於て良民四百八十人なり。

三池集治監　職員ゝ典獄以下二百九十四人ゑして、外ゑ分遣憲兵隊あり。囚徒總員ゝ一千六百三十餘人あり。

三池町　は、久留米柳河より熊本ゑ通する街道の宿驛として、數年前より繁昌の一市街なり。戸數一千百二十七戸、人口六千百六十あり。郡中の大邑なれゝ三池郡役所三池區裁判

出張所直税間税分署三池郡議事堂等ありて、九州鐵道開通後は稍大牟田町より其繁盛を奪はれたるの觀なきを免れず。

三池郡名稱の起因　三池郡誌より本郡上古御木の字を用ひ美計と訓す。往昔景行天皇熊襲を征し、蹕を日向に駐め玉ふこと六年、九州を巡撫して本郡より至り、高田の行宮より居る。一の偃樹あり、長さ九百七十丈、隨行の百僚其樹を蹈んで往來す。天皇之を問ひ玉ふ。故老答へて曰く、是れ櫪木なり、其倒れさる前は朝日よは樹の影肥前の杵嶋山より映し、夕日よは肥後の阿蘇山より映すと。天皇曰く、是れ神木なり、此國宜しく名を御木國と稱せよと。此事日本紀に詳なり。中古御木より易ふるに三毛の字を以てし、後又三池より作ると云ふ。序でに記す此櫪木の陳根い、今も猶三池町字櫪木と云ふ。近傍にありとのことよて殆んど一里四方に盤延し、土人往々之を掘出すものあり、其色を見るに、淺黑又い淡赤にして、木理明らかなり。土人之を扶桑木と呼べり。

三池山の臥龍梅　三池山は三池町の東南にあり。尤も登臨の地に宜ろし。其山腹に一寺院あり、天台宗なり。庭園に立つて眺望すれば、右顧左盼の間に全郡の山川風土を指點すべく、又海を隔てゝ肥前の温泉岳を見る。園内又た臥龍梅あり、何時の頃より植へたるを詳かにせず。開花の時節杖を曳くの雅人墨客多し。

岩ケ鼻の奇勝　三池大牟田に遊ぶものい、又た岩ケ鼻の奇勝を探らさる可からす。岩ケ鼻は即ち大牟田の南數十町三川村の内四ッ山の脉海中に突出する處なり。旅客い停車場より南に五嶺突出するの山を見るべし。其大なるもの四ッあるを以て四ッ山といい云へり。此山も亦た尤も眺望に富みたる所にして、西南内海に臨み、眼下瀛船帆船の往來するを見、海を隔てゝは肥前の温泉岳杵嶋山と相對し、西嶋原港は一たひ跨がれは達し得べきの思あり白壁波と映し、炊烟霞と紛ふ。岩ケ鼻は、即此膝下にして、奇巖怪石相連なりて砂嚢海中に走ること一里計り。春風穏かにして海鏡の如く、秋月高ふして波油の如き時に當り、一罈の肉、一瓢の酒、以て此仙境に遊ふものは、爲めに百年の壽を長ふせんと云ふも、又た穴勝ち編者の過言にあらさるなり。

瀛車大牟田停車場を發すれば、軌道は海邊を迂回して、右有明海を隔てゝ嶋原の海灣を望み、左りに八方が岳の秀麗を眺め、進むこと暫らくにして瀛轢車の運轉稍やく緩に、進行長洲驛に至て停まる。

長洲驛

長洲停車場は、熊本縣肥後國玉名郡長洲村にありて熊本縣の第一驛なり。此驛は近傍村落

より來る乘客の外嶋原港より長洲港に渡りて此處より門司の方へ上る。旅客も亦た多し。」長洲町　い、停車場を距ること二十町餘。戸數二百餘に足らずと雖とも、其海邊は肥後北部の好漁業場たり。此地亦た多く製鹽を產す。長洲鹽の名夙とに市場に現い る。其他此驛に於て名勝舊蹟の旅客を案內するに堪ゆるものなし。只腹赤濱と云ふい、此海濱の總稱にして、往昔景行天皇築紫御巡遊の際腹赤の魚を獻する處なりと云ふ。小岱山　は、玉名郡中の鎭山にして、旅客の此郡に入る者は直ちに其泰山たるを知る可し蟠根數十の村邑に亘り峯巒頗る多し。小岱は其總名にして、古へい之を墨摺山と稱せりと云ふ。山形八面一樣の眺めを爲すが故に、又た八方が岳の稱あり。里俗傳へて當郡の地形中富村を頸びにして龜の形に似、小岱山を背に負ふて蓬萊の像ありと云ふ。

流車長洲停車場に停まること暫らくにして、再び進行を始むれば、流車は漸やく海邊を離れて進むこと六哩にして、達する所は高瀬驛なり。

高瀬驛

高瀬停車場は、高瀬町を距ること十町餘、彌富村大字繁根木にあり。九州鐵道第二十三次の停車場にして、高瀬川運輸の便と高瀬町の繁昌を有するが故に、荷客の乘降頗る頻繁九

州鐵道中の一好驛なり。但門司驛を距る百四哩一鎖熊本驛を距ること十七哩三十鎖の邊にあり。

高瀬町　は、肥後北部の一小都邑にして、戸數七百、人口三千五百。市街頗る繁盛の景況あり。地勢沃田四方に廣くして高瀬川の流れに沿ひ、船舶の便あり車馬の利ありて、合志山鹿菊池各郡の米穀其他の產物は、凡べて一度び此地の問屋に回漕して、夫々輸出するを以て、米商回漕業旅店料理店亦た尠なからず。又た此町は福岡に通ずる國道中の一大宿驛なれば、旅人の出入も頻繁なりしが、鐵道開通後は稍其數を減じたりと雖とも、一般の商勢は益々活潑なるの景況なり。

高瀬川　は源を菊池の山間に發し流れて菊池川となり、合志川迫間川を合せ、山鹿町を經て玉名郡に入り、高瀬を經て滑石川口より海に注ぐ。球麻川及白川に次ぐ大河にして、長流十八里其幅廣ろき處は百五十間に及ぶ。尤も運漕の便に富むを以て上下の荷船常に絕ふることなし。

官衙及學校　の此町にあるものは、玉名郡役所玉名警察署高瀬區裁判所高瀬直稅間稅分署高瀬郵便電信局小包郵便取扱局高等小學校尋常小學校等なり。

願行寺　は貞和五年の草創にして、時宗相州藤澤の淸淨光寺の末寺なり。寺內龍造寺山城

守隆信の墓あり。

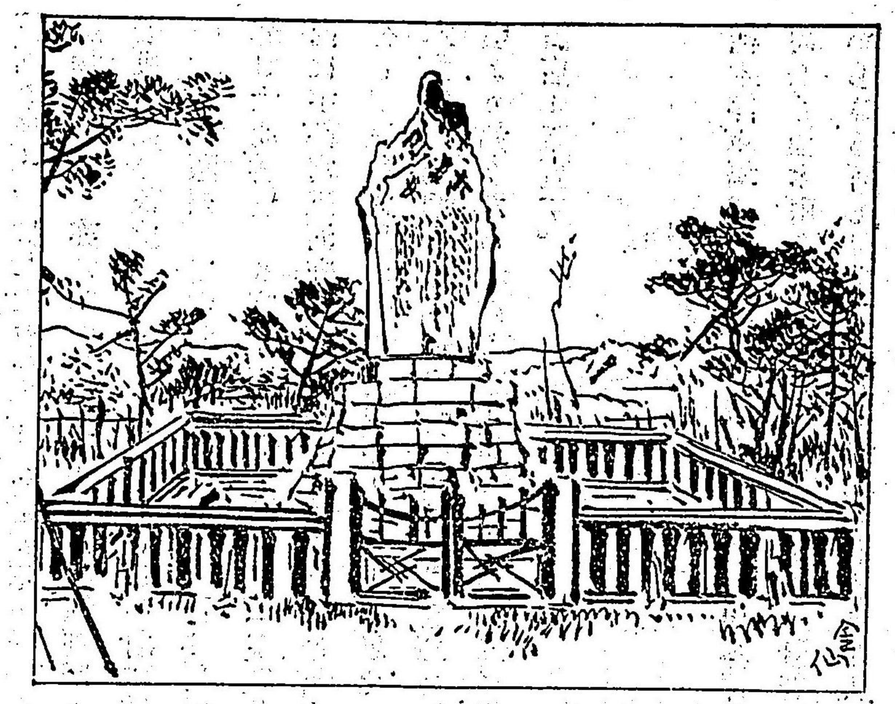
小天温泉　高瀬町を距る三里、海邊に一村あり小天村と云ふ。一温泉あり。山海の眺望に富み、又た蜜柑の名所なれば浴客常に輻湊す。

繁根木八幡宮　い停車場の近傍にある大社にして、社帳を檢するに人王六十二代村上帝依勅願應和元年本郡大野鄉領主紀國隆山城國男山石清水八幡宮を勸請して、大野鄉二百五十町の鎮護とす云々とあり。毎年舊曆九月廿八日廿九日祭禮賑やかなり。國隆の墓今尚ほ善福寺内に在り。

汽車高瀬停車場を發すれば、高瀬川の鐵橋を渡り、高瀬市街を後とに見て行くこと暫らくにして、木葉停車場に着す。

木葉驛

木葉驛は一小停車場にして、名勝舊蹟の別に記すべきなし。只此邊い明治十年の亂劇戰畫夜に亘りたる新戰場なり。木葉町は即ち停車場接近人家相集る處にして、繁昌の町にあらざれども富豪の家多し。明治廿六年度の通常縣會に於て地方税及有志の寄附金を以て停車場に通ずる道路開修の事を議決す。



田原坂頭紀念碑

田原坂　い停車場を距る僅かに數町、植木町木葉町間の嶮坂なり。今は道路工事進歩して嶮坂と云ふ程にあらず。此坂即ち丁丑の亂賊軍砲壘を築き官軍を支へたる要害にして、劇戰二十餘日、晝夜彈丸雨の如く、草木之れが爲めに挫折し、一時寸青無きに至る。今尚其痕を尋ぬ可し坂頭稍平坦なる處に一大石碑あり。以て後世の紀念とす。其碑文は當時の熊本鎮臺司令長官谷干城將軍の筆にして、其題して崇烈の二字を大書せるい、大總督有栖川熾仁親王の親筆なり。坂頭四時の眺望に富むを以て來り遊ぶもの多し。

招魂社　も亦た木葉町端れの丘上にあり十年戰死官軍の靈を葬る處にして、社内

櫻樹を植へ、閑靜なれば散歩に適當なり。

遺物陳列所　亦た其近傍ゑ十年役遺物陳列所あり。近年木葉町有志の發起ゑて陸軍將士の賛成を請ひ設立する所ゑして、其倉庫の材木等ゑ至る迄凡て戰時の遺物を用ひ、中ゑ數多の遺物を陳列して當時の紀念となす。訪ふて當時の慘烈を追想せよ。

春日大明神宮　亦た木葉村ゑあり、天兒屋根命武雷神を祭る。養老年間の創建あり。社内に宇都宮三河守藤原隆房を合祀す。宇都宮大明神之なり。隆房ハ延文五年征西將軍宮ゑ從ひ、筑後大原の合戰ゑ討死す。親王其忠死を歎美し給ひ爰に合祀すと云ふ。

木葉猿　此地ゑ土產あり、疎造の陶器を以て異形の猿を作る。此事遠く春日大明神創建の頃より始りたるが如し。土俗是れを買ふもの惡疫旱癘を免ると云ふ。其猿大小數多今尙ほ露店ゑ販賣す。

植木驛

植木停車場は、植木町を距る二十餘町山本郡菱形村大字鎧田ゑありて、長洲木葉の兩驛と同しく植木町ゑ到る間の道路改修工事の計畫旣ゑ成り居れば、竣工の曉ゑは旅客の便利少からさる可し。此驛は山鹿郡及菊池郡ゑ出入する荷客乘降の驛なれば、穴勝ち山間の小停

車場ゑあらさるなり。

植木町　は山本郡中の市街地ゑして、熊本より三池を經て福岡ゑ通し、又た山鹿郡山鹿町ゑ通する街道の宿驛なれば、永き以前より町の形ちを成し、漸々盛大を極め、旅店飲食店軒を列ねぬ、市況益々賑ひ、明治廿二年自治制實施と共ゑ近傍數村落を併せて植木町と稱するゑ至りたるが、鐵道開通後は、旅客の此街道ゑ依るもの次第ゑ減して、從來の繁昌を見る能はすと雖とも、高等小學校あり警察署あり猶郡中の繁昌地たるを失はすと云ふ。

杵築神社　停車場近接の地ゑあり、松柏蓊蔚として地を蔽ひ、神殿壯麗ならさるも閑靜の境界自ら神威の嚴然たる者あり。此社は尤も由來久敷き神ゑして、推古天皇二年三月太巳貴神外六神を祀ると云ふ。靈驗殊ゑ四方に聞へ玉へば、祭日及ひ惡疫の時節など、近郡各地より來り詣つる者多し。

七國大明神宮　停車場を距る一里餘小野村にあり。後奈良帝弘治十四年筑前箱崎八幡筑後高良豐前宇佐豐後由須原八幡薩摩霧嶋肥前千栗八幡肥後阿蘇此七箇國の神社を勸請すと傳ふれども、事實分明ならす。或は云ふ出羽國郡司小野良實讒言によりて小野村ゑ配流せられたる時　本國歸參の祈願の爲めゑ七箇國の神社を勸請して日參す、其砌一女を儲く即ち小野小町と稱す、小町三歲　及ぶ頃良實は勅免を蒙りて歸京し、本領を安堵し、小町は帝の

宮仕となると云ふ。社前ゝ奇景の巖泉あり、俚俗小野泉水と稱す。往古小町此地ゝて誕生する時此水を産湯ゝ用ひたり。俚俗云此村農夫の女ゝ必す美人一人宛生るれども十五歳未滿ゝして夭死すと。笑ふ可し。

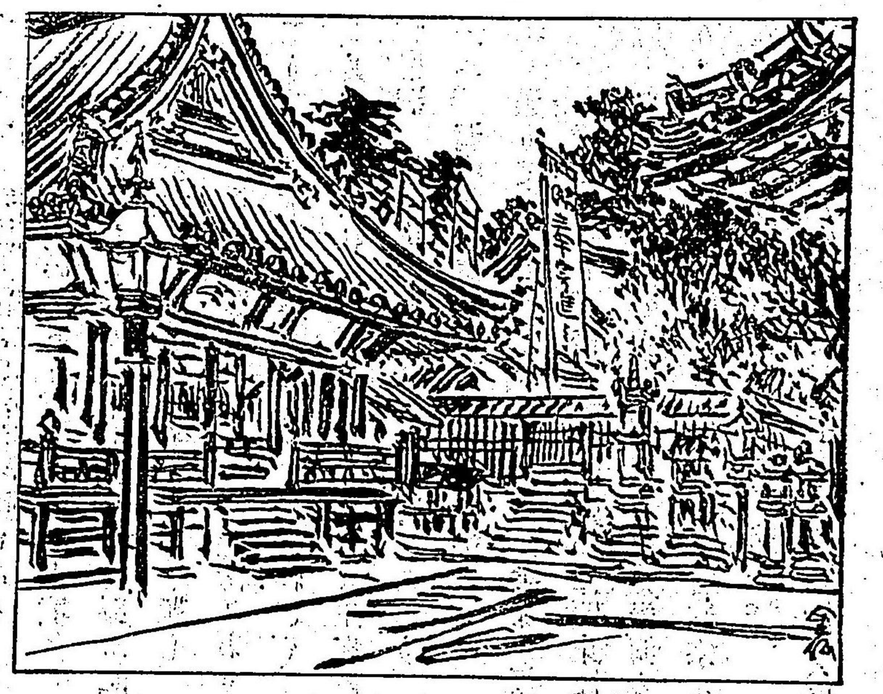
良實墓　小野村の林間ゝ古塚あり。塔石至つて古く佛像を彫たるゝや銘文等明かならす。里民是を小野良實の墓と云ひ、又た其舘迹も亦た此處なりと傳ふれども、亦事實審ならす。

吉次峠　は、停車場の西方三里餘玉名郡と山本郡との界ゝ聳へたる高山ゝして、西南の役賊將篠原國幹の戰死する處なり。傳へ云ふ、往昔金賣吉次諸國を巡り此處ゝて强盜ゝ害せらる。其墳墓とて山上ゝ古塚あり。然れども諸書を案するゝ此事疑は敷或は同名異人なる可きか。

菱形八幡宮及菱形池　停車場より里餘菱形八幡宮あり、往古は大社なりしと云ふ。當所は八幡大神始めて出現し玉ふ地なりと。神皇正統紀云、欽明天皇御宇肥後國菱形池ゝ始めて神と現はれ、我は仁王十六代譽田八幡麻呂也と宣ふ云々とあり。菱形池は岩洞の中にありて、亘り四五尺長八九尺水淺し、菱の形ゝ似たり。紀貫之の歌ゝ

豐國の菱の池なる菱の根をとるとや妹か袖ぬらすらん。

流車植木停車場を發し、地勢漸く低落せる所ゝ向ふ。次ゝ列車の止る所は池田停車場なり。



本妙寺清正公廟

池田驛

池田停車場　は、飽田郡池田村大字池田ゝあり。熊本驛を距ること僅ゝ二哩二十鎖。一小停車場なれども加藤清正の廟本妙寺其近傍ゝあり。亦た熊本市の東北部坪井京町方限の荷客此驛ゝ來るもの多し。鐵道開通の後熊本市會の議決を以て停車場清正公より市内ゝ通する結構の新道を開鑿せり廟

發星山本妙寺　停車場の西數町の所ゝあり。加藤清正の廟ゝして諸國の參詣常ゝ絶ふることなし。加ふるゝ山上春秋の眺めに富み、而して熊本市を距ること數十町ゝ過ぎざれば、尤も散歩ゝ適當なりとす。靈廟は慶長十六年十月嗣子忠廣の建

立として、拜殿の額には淨池院殿とあり、即清正の法號なり。靈廟の側に大木土佐守兼能朝鮮人金官殉死の墓あり。其他山中古墳多し。又た側らに大なる自然石の碑あり、文化十四年の建立にして公の一生を詳ふすと雖も既に世人の了知する處あれば之を略す。廟の壯嚴山内の宏大は今限あるの筆に盡くし難し。

成道寺　萬歳山と號す、停車場の近傍にあり。菊池正觀寺八世の住職寛中元志和尚の開山なり。今は堂宇壞廢して古梵に屬すれども、地靈にして水清く、尤も夏日の消閑に適し、炎夏の候に至れば寂寞の禪境忽ち騷人墨客の遊地と變ず。

靈巖洞　停車場の西方一里半芳野村にあり、俗に岩戸と稱す、洞中百人を入るゝに足ると云ふ。洞中に安置せる石体四面の觀世音は、往昔何れの年にか異域より渡れり。其時舟子楫を過りて舟を覆へしけるに、靈像恙なく板に乘り、河内村の西南なる岸に漂着す。今其處を佛崎と稱せり。後に大元明州の沙門東陵永興此地に來りて寺を建て、靈巖寺寶華山と號しぬ。今尚巖洞の上に題字あり、靈巖洞の三大字は小篆書にして東陵書の三字は楷書なり。是れ東陵の筆迹と云ふ。永興は曹洞宗にして貞和四年本朝に來り、鎌倉圓覺寺京都南禪寺等に居りて、貞治四年を以て死す。

又巖洞の左りの巖壁に、鹿子木三河守親員入道寂心が彫置る逆修の石碑あり。洞中には澤村

大學が逆修を彫れり。

巖洞の内に船頭石と云ふあり、觀音渡航の時楫を過ちたる船頭冥慮を怖れ石と化して蹲ると云ふ。洞の傍なる所に石の五百羅漢を造立す、奇雅喜ぶ可し。天明三年の造立なり。洞の近傍に皷が瀑と云ふ少さなる瀑あり。昔は鼓の音すと云ふ。立寄り見る可し。

汽車池田停車場より本妙寺山を後ろにして京町臺を左に望み、一瞬にして熊本市外高麗門を過ぎ、熊本驛に着す。

熊本驛

旅客は早や門司港より百二十一哩三十一鎖を經て九州の大都たる熊本市に着せり、いざ匆々車を下りて案内者に從つて來れ。

停車場の在る所は春日原とて飽田郡春日村の地内あり。近年まで南瓜芋午蒡の畑なりしが鐵道開通して此處に停車場を置きてより、其近傍に回漕店待合所旅人宿の新築先を競ふて起り、地價一坪十五圓乃至二十圓の高價を呼ぶに至れり。停車場前に通せる大道は、第三十七號國道にして鹿兒島縣に通し、又た三角港百貫石港より來る者凡て此道に依る。旅客は此處より此大道を左りに進み五六丁にして橋を渡り、熊本市細工町に入る可し。いざ是に

り地形風土及ひ名所舊蹟ょ就ひて筆を執らん。

熊本市の記

熊本は九州の一大都會なり。地勢東南は阿蘇及益城の山岳を望み、西北は金峰山花岡山近郊に聳へ、海を距ること三里、白川坪井川市街の間を貫流し、大小の橋之ょ架す。市外は飽田郡及託麻郡ょして膏腴の田地相連れり。全市の戸數壹萬二千、人口五萬一千餘、所得稅を納むるもの六百以上に達す。試みょ其沿革を尋ぬるに古の熊本府は今の飽田郡田崎村古町村邊にありて、在廳屋敷の跡今ょ存し、其外古跡多し。其後菊池の一族出田秀信千葉城ょ在城す。大永享祿の頃鹿子木三河守親員山本郡より移りて隈本ょ來り、城を築く、今の古城なり。親員より二代久基の時天正十五年豊臣秀吉征西により久基退城す。加藤清正其後を襲き、千葉城及古城を併せて一大城を築き、熊本城と云ふ。又古府中の寺院商家等を引移し、國府と成すと見へたり。熊本舊隈本と號す。俗説ょ後三條院の御宇菊池家の祖則隆鞍嶽觀音を信仰し登山せしょ、夕靄紫翠を含み、天色彩るが如く、隈ありて其隅と處色濃く見へしかは、之を隈本と稱したりと傳へ、慶長六年加藤侯城築の時一國の府たる故、府ょ畏るゝと云ふ文字を忌みて熊本と改め稱す可き旨國中ょ觸れ示めされたりと云ふ以來今日ょ至る數百年、人烟次第ょ繁殖し、明治維新の後白川縣廳を飽田郡ょ置き、後熊

本縣と改稱して古城内ょ置き、近年亦た千反畑町ょ縣廳を新築したり。市街は明治十年の兵燹に罹りて概ね灰燼となりたるを以て、新たょ區劃を定め、町幅を取廣げたれば、市街の体裁亦た九州の都會たるょ耻ちず。加ふるょ第六師團司令部監督部歩兵第十三聯隊第廿三聯隊及砲兵騎兵工兵輜重兵等の兵營あり。明治廿四年より憲兵隊設置の事あり。百貨日々ょ輻輳し、人烟月ょ增加し、商工隨つて進歩の景況あり。今左ょ一々旅客必要の事項を掲ぐ可し。

官衙公署會社學校　等の市内及接近ょあるものは左の如くょして、旅客便利の爲め其所在の町名を記入せり。

熊本縣廳	南千反畑	縣會議事堂	縣廳側
熊本地方裁判所	京町	仝區裁判所	仝上
熊本縣監獄	手取本丁	熊本市警察署	南千反畑
熊本郵便電信局	洗馬橋際	熊本大林區署	古城堀端
熊本市役所	南千反畑	直稅及間稅分署	南千反畑
熊本一等測候所	南千反畑	熊本商業會議所	吳服町

諸會社之部

第九國立銀行	米屋町	第百五十一國立銀行	明十橋河岸
熊本進歩銀行	中唐人町	電燈會社	梅屋敷

肥後倉庫會社　熊本米穀市場　明十橋際
江木回漕店　細工町
海運社　仝上
蚕業會社　櫻井町
九州自由新聞社　米屋町
熊本活版舍　古城堀端
電光新聞社　上通丁
私立熊本病院　手取本町

諸公私立學校之部

第五高等中學校　市外龍田村
熊本高等小學校　手取本丁
仝法學部　内坪井
仝醫學部　山崎町
東亞學館　大江村に在り別に新築計畫中
熊本女學校　大江村
熊本樂學校　山崎町

熊本協同回漕店　明十橋通
通運會社　明十橋通
力食社　内坪井
九州日々新聞社　上通丁
熊本新聞社　山崎町
細流舍　手取本町
茶業組合聯合會議所　下通丁
乘合馬車會社　北千反畑

尋常師範學校　京町
私立九州學院普通學部　高田原
仝文學部　内坪井
文學精舍
熊本英學校　九品寺村
尚絅女學校　高田原

等よして官衙公署の如きは漏れなく掲載せしも、會社よ於てゝ其少なるもの又ゝ創立中の者、學校よありては私立學校の小なるもの及び各町尋常小學校は略して之を掲けず。

旅店　當市旅店ゝ洗馬町邊よ多し。之よ次ひて細工町吳服町其他各町よ多し。中よ就ひて

其最も大なる者ゝ、洗馬町の研屋、山城屋、綿屋、手取本町の不知火館、上通町のめしや、まると等よして、其宿泊料ゝ大概左の例よ依る。

宿泊料

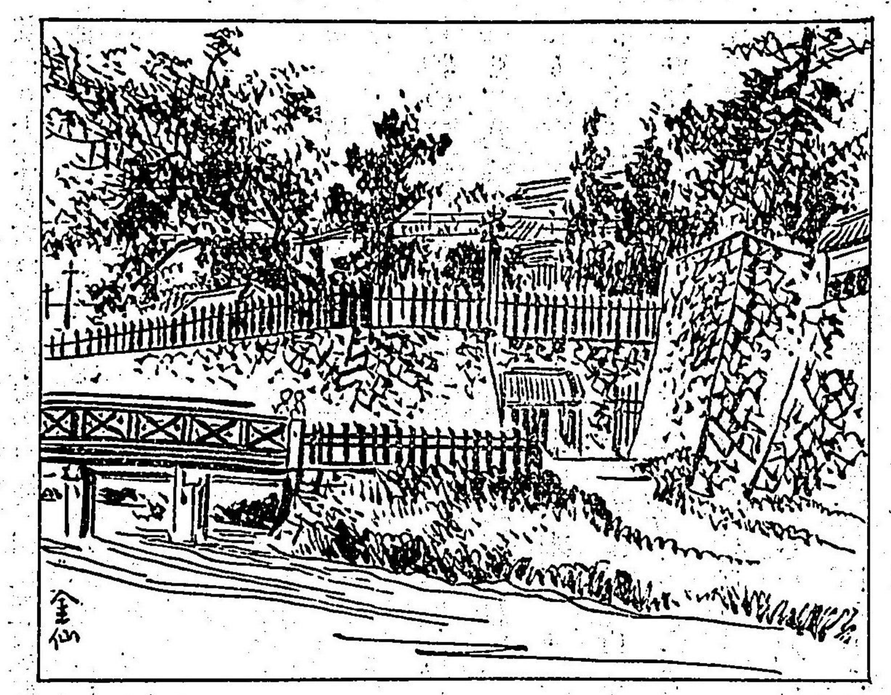
一等　金
二等　金
三等　金
四等　金
五等　金

畫食料

一等　金
二等　金
三等　金
四等　金
五等　金

貨物の運輸　當市よ出入する貨物の運輸は、九州鐵道開通後は鐵道の便よ依るもの多しと雖も、其他の船車運輸の景況を略記すれば、他府縣より來る貨物は百貫石港よ揚りて之より荷車又ゝ川船よよりて市内よ來り、然らざるものゝ三角港よ揚りて荷車よよりて來る者とす。然れども三角港は市内を去る九里の遠程を隔て、石貫石港は僅かよ三里よ過ぎざれど海淺くして碇泊よ便ならず。共よ良港と稱し難し。又た當市より阿蘇又たは大分縣へ至る者ゝ馬車或ゝ馬背等よ依るの外なし。

料理店　の各町よ多きことゝ恐らくゝ此地の名物なるへし。而して其中等以上よ適する者は、二本木町一日亭東雲樓阿彌陀寺町一日亭支店山崎町悅亭手取本丁靜養軒等。之よ次ぐ



熊本城南門下馬橋實景

者は洗馬町都亭丸福山崎町櫻雲樓京常樓等なり。

又其名勝舊蹟神社佛閣等の著しきものを案内すれば、

熊本城　い熊本市の中央茶臼山よあり。北は京町東北は坪井通丁西は新町古町等の市街よ圍まれ、坪井川其麓を環流す。銀杏城の別號あり。加藤清正の築く處み、して、慶長六年其工を起し。十二年よ至りて工事全く竣る。櫓樓七層天半よ聳へ九州の壯觀と稱せり。古城及千葉城い何れも加藤侯以前より在りたる城よして、熊本城を築くよ及ひ廓内よ加へて共よ熊本城と稱したり。明治九年熊本神風黨の暴動及び明治十年西鄕隆盛の乱よ兵火よ

罹り、櫓樓凡て灰燼となり、今は昔時の壯觀を見る能はず、只宇土櫓を存するのみ。其他各兵營等の建物い凡て戰乱後の建築なり。

陸軍諸營　第六師團指令部全監督部第十一旅團指令部歩兵第十三聯隊砲兵第六聯隊は、何れも熊本城廓内よあり。輜重兵第六大隊は百間石垣下よ、歩兵第廿三聯隊及騎兵營は元山崎練兵場内よ、工兵第六大隊營い渡鹿練兵場側よあり。何れも壯大の建築なり。又た近年憲兵隊本部を千葉城よ設けられたり。

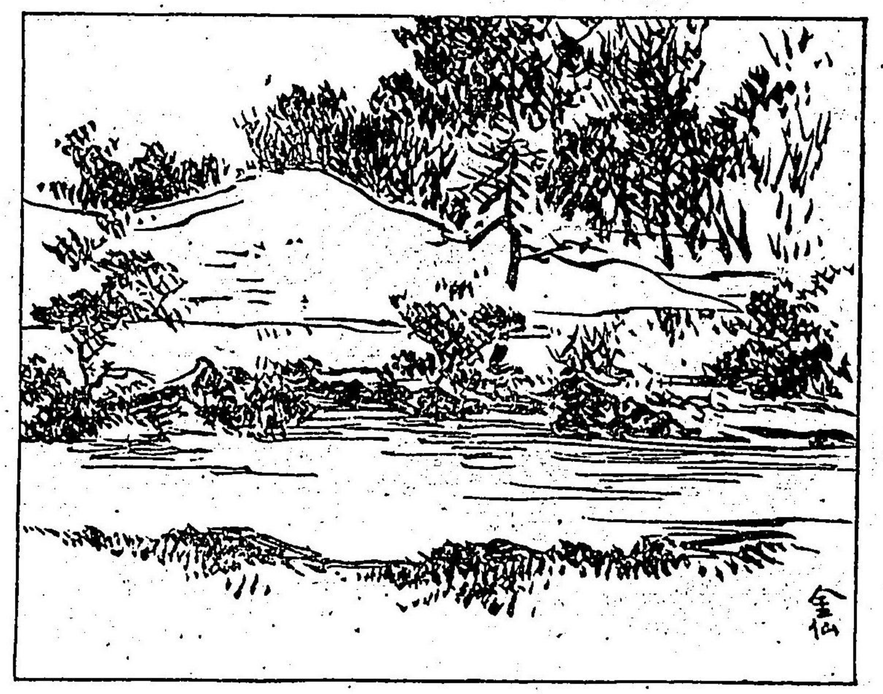
白川　は源を阿蘇郡中の山間よ發し、上益城合志飽田託麻の諸郡を經て熊本市を過き、高橋町を經て海よ入る。長流二十里と稱す。水淺くして運輸の便坪井川よ及ばず。長六橋は即ち此川よ架する大橋よして、市内古町より迎町よ渡る所なり。夏時よ至れば橋下露店を列ね納涼の客を迎ふ。橋上橋下頗る雜踏を極む。

花岡山　當地一の公園なしとて公園設置の論を唱ふるものあれども、熊本の山川風土は既よ天然よして公園よ富みたればよや、公園論も未だ成立つの時なき如し。試みよ之を擧ぐれば花岡山の春花秋風錦山神社の夏涼秋月あり。郊外よ車を驅れば水前寺あり。江津湖あり。本妙寺あり。實よ四時の雅遊よ苦まず、市民の幸ひ到れりと云ふ可し。今順次よ之を案内せんよ、花岡山は市外横手村よありて尤も近く、加ふるよ阪路甚だ長からざれば老少

の別なく登臨す。今の北岡の祇園社昔此山上にあり、故に今尚祇園山と稱す。明治十年の役賊軍此山に砲臺を築きて熊本城を砲擊せり。維新官軍戰死の靈を此處に祠る明治九年の亂暴徒の爲めに殺されたる安岡縣令及種田少將の墓又た山上にあり。墓地を越へて山巔に至れば、鐘懸け松と稱する大なる松あり。加藤公熊本城を築くとき此松に鐘を掛け是を鳴らして役夫を進退せしめたりと云ふ。又た八疊敷と稱する石あり。侯の休憩し玉ひし處と傳ふ。此山甚だ高からざれども熊本市街を一目の下に指點し、飽田託麻諸郡の山川風土より、遠く阿蘇益城の高山を雲烟の際に望み、近きも遠きも凡へて目を娛ましめざるものなし。況や春風花開く日、秋風葉落るの時をや。

錦山神社は京町高臺の上にあり。東北は熊本市街の一半を一目の下に集め、西は本妙寺山金峯山等の風光を望み、夏時涼風常に堪へず、秋月春花觀雪亦た頗る好し。加藤清正の靈を祭る處。殿堂壯麗參詣の旅人絶へず。

成趣園　又た水前寺と稱す。市外一里託麻郡出水村にあり。園内に出水神社あり、舊藩主細川氏累代の靈を祀る。毎年春秋盛んなる祭禮ありて其賑合ひ稀に見る所なり。成趣園は其始め水前寺と稱す、禪刹なり。細川忠利後ちに寺を近邊に移し、其迹を遊休の亭とす。依つて今に水前寺御茶屋の稱あり。假山泉石の景名狀す可からず。清冷の水岩石の間に湧出

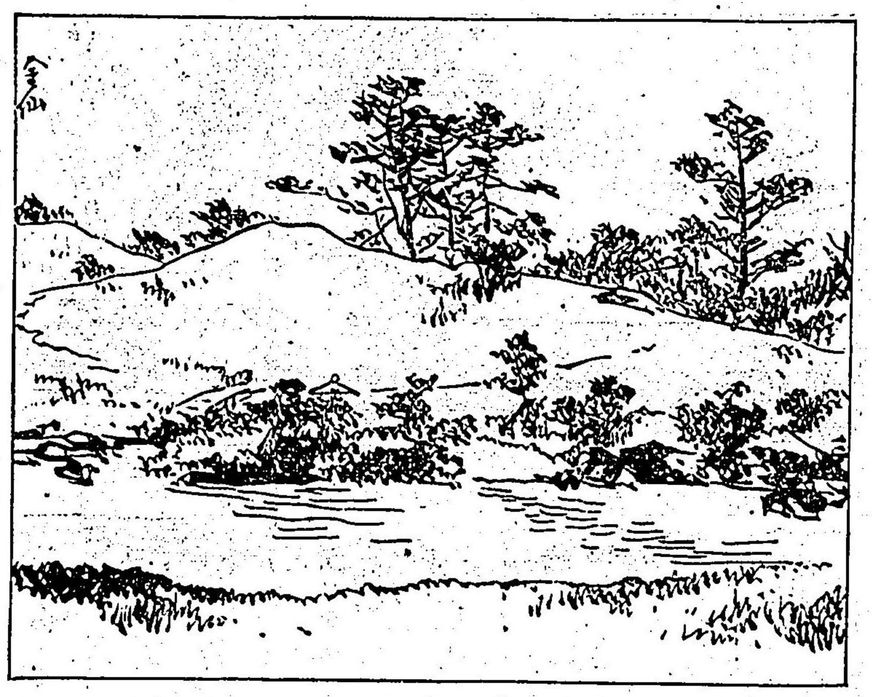


水前寺成趣園　（其一）

して滿園の池となり、大小の錦鱗之れに躍る。好景九州第一と稱せらる。園内の水は流れて砂取町を經江津湖に入る。江津湖も亦た舟遊の勝地なり。

金峯山　は熊本市の西郊に聳ゆる高山にして、飽田郡の鎭山なり。上古一朝地震して此山湧出す。仍て朝出山ともせりと云ふ。明治廿三年熊本大地震あり、當時亦た此山を以て震動の中心と稱せり。山上に大權現社あり、淳和帝天長九年大和國金峯山權現を勸請すと云ふ。山巔遠近の眺望佳なりと雖も、嶮坂遠路到る者少し。

藤崎神社　は、北千反畑町に在り。以前は宮内に鎭座すとなん。熊本城の西邸藤



水前寺成趣園　（其二）

崎臺是れなり。丁丑の乱後今の處に遷す。九州五所別宮の一社にして、中殿い八幡大神、左は住吉大明神、は右い神功皇后なり。朱雀帝の御宇承平三年平將門追討の勅願に依り、山城國石清水八幡宮を勧請す。鎮座の日勅使持てる所の藤鞭を三ツに折て三所に埋み、神靈感格あらば必ず奇瑞あらんと祈る。鞭即ち枝葉を生せり、名つけて藤崎神社と謂ふと云ふ。其藤い今尚は社内に移し植ふ。例年舊暦八月十五日を大祭とす、神幸式の壯嚴目を驚かし、市民の狂奔非常の盛祭なり。神社は白川に沿ひ頗る閑靜の地なれば夏時散歩の勝地とす。

谷隱軒い市外一里飽田郡池上村谷尾崎

水前寺成趣園　（其三）

と云ふ處にあり。水石幽勝山澗閑寂の境にして、園内の臥龍梅は殊に有名なり。又此山隈梅樹多きを以て嶋崎村の百梅園と共に花時消閑の勝地なり。其の谷奥に白糸瀧あり、細川綱利遊覽の地なりと稱す。

古府中　前に記する如く、熊本の府は古へ飽田郡に在りて後今の熊本城の周圍に移りしものにて、今其古府の趾を探ぐるに、市の南端細工町を出て石塘を過ぎて南は蓮臺寺の前、東は白川西は高橋往還を限り、これ古の國府にして、蓮臺寺の北に澤地あるを朱雀に表し、北は後玄武白川は左青龍、高橋往還は右白虎に當れり。今の二本木は護國寺の裏門にありし

水前寺成趣園　（其四）

木なりと云ふ。慶長五六年の間護國寺安樂寺等熊本古町ゑ引移さる。

檜垣の塔　蓮臺寺村蓮臺寺ゑ檜垣の石塔あり。檜垣媼は圓融帝の頃の遊女白拍子ゑして、肥後國の生れなり。其若かき頃は京師ゑありて詠歌ゑ秀逸なり。又た筑前大宰府ゑも居りしことあるが如し。老後本國ゑ歸り府中の裏なる白河端（今の二本木町邊か）ゑ居り、其家檜の垣を繞らせしを以て檜垣と稱すとも云ふ。

此女齡百ゑ及ぶ頃毎日白河より閼伽の水を汲んで岩戸觀世音ゑ手向けしとなん。檜垣の石塔近曾熊本城内の庭ゑありしを忠利入國の後父三齊の命ゑ依り舊の如くゑ蓮臺寺ゑ返へし遣はさる。此遊女の居

りし邊今は遂ゑ遊廓となり居ること不思議なり。今左ゑ檜垣の歌二三を掲記すべし。

清原元輔初め筑前守たり、檜垣を知る。後ち肥後の守となり、又檜垣を見る。任滿ちて首途の所ゑ呼はれける時、檜垣の歌ゑ、

白川のそこの水ひてちりたゝむ時ゑそ君を思ひわすれん。

藤原興範朝臣其邊を通り玉ふ序でゑ水を請はれければ、

年ふればわか黑かみもしら川のみつはくむまで老ひゑけるかな。

二本木町　は九州有名の遊廓ゑして、廓内年々人口繁殖し、貸座敷割烹店亦漸々增加の景況なり。現今藝妓娼妓凡そ六百以上ゑして、貸座敷三十餘樓あり。熊本の遊廓は明治十年以前は京町（けうまち）ゑあり、兵火の後二本木町ゑ移轉せしが、僅々十五六年間ゑして今日の有樣となりぬ

九州鐵道旅客の手引　終

鳥栖驛

此驛は、佐賀支線の第一驛として、肥前國佐賀縣養父郡鳥栖村にあり。本線の記事中に記するが如く、頗る荷客輻輳の停車場なれども、名所舊蹟等に就きては更らに旅客を導くに足る者なし。只左に記する所の各項を見て其形勢を知り玉ふ可し。

四阿宮　停車場の西一里半牛原河内にあり。景行天皇を祀ると云ふ。

筑紫廣門の城跡　四阿宮の側にあり。今は僅に其石垣の存するを見るのみ。清水一流あり、其水底は一大石ありて、其長數十間に及ぶと云ふ。

郡役所　は停車場を距ること數丁の所にありて、基肆養父三根三郡の聯合なり。

旅舍及問屋　旅舍は、鳥栖町に於て中等なる者一兩軒あり。荷客の取扱ひは八阪會社を以て當驛の重なる者となせども、追時繁華に赴くことあらば、從つて多きに至るなる可し。

産物　特有の名を附するに足る者なしと雖も、蠟及米は、他に向つて輸出すること多し。

旅客は一聲の滊笛と共に鳥栖驛を後とに見て發車すれは、忽ちにして中原驛に達す可し。

中原驛

中原停車場は、養父郡中原村にありて、佐賀支線中の一小驛なり。停車場を距る一里計りに有名なる綾部八幡宮あり。祭時に至れば頗る繁昌の景況を見るべし、其他擧げて記すべき事なければ旅客各自の探聞に任かす。

神崎驛

此驛には、佐賀市を距ること二里計の國道を隔て、滊車瞬間にして達することを得るなり停車場は神崎郡神崎村にあり。神崎町は戸數三百餘、神崎郡役所及警察署高等小學校等ありて、先つ佐賀支線中に於て指を屈するに足る可きもの。

櫛田神社　は、此驛に於て旅客を案内するに足る大社なり。樹木鬱叢殊に夏凉秋月の遊歩に適せり。櫛田神社は當驛及び福岡縣福岡市博多町にあること前に記するが如し。其因緣は共に同しきを傳ふれども、筑前國故儒者貝原篤信翁は博多にある者を以て正しき者となせり。猶再版に至らゞ詳説することある可し。

産物　當驛も亦た記すべき産物あることなしと雖も、強ひて之を擧ぐれば、神崎素麺は其

重なる者とす。

次は則ち佐賀城下

佐賀驛

停車場　は佐賀市の西端あり。有名なる佐賀城下に於ける乘降の客頻繁の停車場なれば、九鐵線中の大驛なりとす。今左に佐賀市の大略を記すべし。

佐賀市の記

佐賀は其昔榮と稱す。仍て今尚ほ榮城の別稱あり。永祿の初め龍造寺氏之を領し、次て鍋島氏之に代つて明治に至る。長崎市に次く繁榮の城下にして、人に勇敢の風あり。目今佐賀市と稱するは、市坊二十二昨廿五年八月現在の調査に依れば戶數五千二十九戶人口六万五千餘官衙諸會社商店等亦た一都會たるに耻ちず。市況益々殷賑に赴くの景況なり。

諸官衙及公署　の當市内にある者は左の如し。

佐賀縣廳	赤松町	地方裁判所	松原町
區裁判所	仝上	市役所	同上
縣監獄	赤松町	佐賀郡役所	松原町
大隊區指令部監視區	赤松町	郵便電信局	白山町

直稅稅間分署	白山町	佐賀小林區署	中町

銀行及諸會社　は左の如し。

百六國立銀行	松原町	七十二國立銀行	蓮池町
私立三省銀行	柳町	私立榮銀行	興加町
私立古賀銀行	蓮池町	佐賀取引所	松原町
蚕糸業組合	吳服町	佐賀書籍會社	松原町
汲古堂書林	白山町	勸工場	蓮池町

諸學校　は左の如し。

佐賀高等中學校	松原町	縣立佐賀尋常中學校	赤松町
尋常師範學校	同上	佐賀高等小學校	白山町
弘道館仝女子部	松原町	干城學校	水ヶ江町
有隣學館	上蓮町		

交通　今亦た旅客の爲めに當市より各地各港に到る交通の大略を記せんに、海路は當市を距る二里に近き諸富港に於て、滊船帆船日々輻湊して長崎博多熊本に向ふの便あり。陸路は此處より長崎佐世保伊萬里唐津等の諸市街凡て腕車荷車の便あり。

旅館及料理店　旅館は、中等以上に適するもの白山町の榮德屋元町の境屋松原町の一ッ屋松本屋等なり。料理店は多く松原町近傍にありて、藝妓を置くことを許せり。今其大なる

者三三を擧くれば、楊柳亭清蓮亭花月亭等なり。

神社及遊覽地　神野茶屋は停車場を去る半里程、舊藩主の遊休所として、四時の風光に富むを以て旅人の來り遊ぶ者多し。松原神社は松原町にあり。停車場を距る十町餘舊藩主累代の靈廟なり。社内散策の地たるに適す。又た有名なる江藤新平氏の墓は佐賀郡鍋島村にありて、氏の紀念碑は停車場を距る十四五町、舊城内にあり。又氏の同志者の碑市外與加町にありて、停車場より十二三町。其側らに招魂社あり。何れも旅客の遊覽に適す。

遊廓　は市外木原村にありて、市に接續せり。貸座敷僅かに三軒敢て繁盛と云ふに至らず

藝妓は市内の各料理店に住む者合せて三十四五名に過ぎず。

以上九州鐵道線路各驛に附いて不滿足乍らも案内の義務を終へたり。行文澁滯句を爲さず。調査或は疎密に偏するは偏へに編者の恐縮に堪へざる處なり。然れ共如何んせん出版の督促日々に急にして充分の編成を爲すを得ざるを。殊に佐賀支線各驛の取調への如き、今編者胸中の十分の一を記するに足らず。請ふ二版三版に至り、四方有識の斧正を求め、而して始めて漏脱なきに至らんとす。旅客乞ふ之を諒せよ。

編者謹白

明治廿六年九月一日印刷
明治廿六年九月四日發行

定價金拾五錢

著者兼發行者　岡本武平　熊本縣熊本市洗馬町一丁目八番地平民
印刷者　木村吉藏　東京京橋區采女町九番地
印刷所　文英社　同所

發行所　岡本武平　熊本縣熊本市洗馬町一丁目平民

版權所有

肥後名産

朝鮮飴

一名 肥後飴

朝鮮飴は肥後特有の名産にして夙よ天下よ聞へたる逸品なるが弊舗は茲よ多年の經驗工夫を積み製造上大よ改良を加へたるを以て更よ一層の美味を添へたり十目の見る所十指の指す所を知らんと欲せば左の諸評を讀み賜へ

○朝鮮飴の名所は熊本なり熊本よ朝鮮飴製造家多し而して精煉山城屋製の如きは蓋し少なかるへし其色合と云ひ其の甘味と云ひ他店の遠く及ばざる所なり（九州日々）

○熊本市山城屋よて賣捌く全地名産の朝鮮飴は風味頗る佳よ老を養ふへく幼を悅ばしむへく又點心となすよ妙なり（郵便報知）

○造り方の堅き丈は異なれども先づターキッシュデライトに能く似寄たる美味よして製造者自ら述へたる左記の餅は決して溢美よあらざるなりクリスマスの進物として何人よも買ひ賜へと勸め得べし（横濱ガゼット）

○熊本市洗馬壹丁目小早川慶八氏の製造よ係る朝鮮飴は多年の經驗工夫を積み製造よ改良を加へたるものにて從來の品と違ひ風味淡白にして茶用等よ最も適當せり（大阪毎日）

本家製造元

熊本市洗馬一丁目山城屋事

小早川慶八

研屋旅館稟告

創立明治十一年の初めよ在り西南の乱纔かよ平らぎ万餘の人家燒土蕭條の中よ經始するもの、營業の久しき新開業家の不完全なるよ優る處あり

位置 熊本市の中央洗馬川の畔よ在り、風光の美、眺望の佳恐らく市内各旅亭よ冠たらん

客室 通計卅五個あり半は川よ臨み且新築する所ろ華客をして不潔の感なからしむ

改築 一昨々年一棟新築したるよも係らず昨年又た一棟改築せり客室三層よして築ね流よ臨み有名なる岳翁水木精華樓なる號を與へられたるい弊店の實景を寫したるものなり

出張處 熊本池田兩停車場よ出張處を置き華客を送迎す爲めよ自ら切符を買ひ品物を預る等の煩なからしむ

食料 は特よ精撰し殊よ魚肉の如きは新鮮の物よ非れば用ひず常に攝生よ注意しあるい大方華客の熟知せらるゝ所なり

人力車 弊店は特よ數輛の人力車を備へ挽子を選み居れり不潔の人力車に乘り不具の挽子よ遇ふの恐なし殊よ車賃の如きは一々店員より取調之上請求すれば不廉の恐なし

安全 從來二名宛の不寢番を置き旅館内を警戒せしめあれば窃盗の虞なし

研屋旅館主 岡本武平 謹言

19
449